



HOME > 医師・医療関係の皆さまのページ > 新着情報 > 新着情報

## 医師・医療関係の皆さまのページ

### 新着情報

#### ● 新着情報

- [I-131内用療法に際して治療証明書を\(2012.03.15\)](#)
- [空港などの放射線モニタ、ならびにショッピングセンタなどの炎センサーのアラームについて\(2012.03.15\)](#)
- [妊娠初期のチアマゾール投与に関する注意喚起について\(2011.11.30\)](#)

#### ■ I-131内用療法に際して治療証明書を

――放射線モニタおよび炎センサーの作動に注意

日本甲状腺学会では臨床重要課題として「I-131内用療法の手引きの作成」を取り上げ、平成19年に「手引き」を、続いて平成23年に「バセドウ病治療ガイドライン2011」を作成した。その過程で、空港などの放射線モニタ、ならびにショッピングセンタなどの炎センサーのアラームの作動に注意を要することが判明しました。そこで、その情報を会員の皆様にお知らせし、注意を喚起するとともに、I-131内用療法を受けた患者への「治療証明書」の雛形を作成しましたので、ダウンロードしてご利用いただきたいと思います。

WG責任者 小西淳二  
担当 御前 隆

#### ■ 空港などの放射線モニタ、ならびにショッピングセンタなどの炎センサーのアラームについて

近年空港などでの保安検査が厳しくなっており、外国では核物質を用いるテロリズムを想定した放射線モニタがアイソトープ治療後の患者の体内残留放射能を検知してアラームが作動してしまう事例もいくつか報告されている1)、2)。海外旅行を計画している患者さんに対しては、治療を行ったことを証明する文書を発行しておけば無用の混乱を避けることができると思われるので、外国の例2)を参考に日本版の文案を英文で作成した。和文でも同様の文書を作成する予定であったが、最近国内のショッピングセンタや一部の医療機関に設置された紫外線感知型炎センサーが、ガンマ線が原因と思われる誤作動を起こす事例3)が報告されたことを受けて、日本語版ではその可能性についても言及する内容とした。

#### ● 医師・医療関係の皆さまへ

##### ▶ 新着情報

##### ▶ 学会入会・年会費

↳ [入会のご案内](#)

↳ [学会入会申込書\(exel\)](#)

↳ [年会費納入について](#)

↳ [学会会則](#)

↳ [委員会の細則](#)

##### ▶ 学術集案内

##### ▶ 生涯教育・専門医教育

##### ▶ 専門医制度

##### ▶ 全国認定専門医施設

##### ▶ 臨床重要課題

##### ▶ 診療ガイドライン

##### ▶ 臨床甲状腺カレッジ

##### ▶ トラベルグラント制度

#### ● 一般の皆さまへ

##### ▶ 新着情報

##### ▶ [日本甲状腺学会の紹介](#)

##### ▶ [認定専門医名簿](#)

##### ▶ [認定専門医施設名簿](#)

##### ▶ [バセドウ病のアイソトープ治療Q&A](#)

##### ▶ [関連学会ホームページ](#)

#### ● 会員の皆さまへ

3 7 7 6 4 4

## ■ 妊娠初期のチアマゾール投与に関する注意喚起について(2011.11.30)

バセドウ病は妊娠可能女性に多くみられ、我が国では大半が抗甲状腺薬治療を受けています。抗甲状腺薬にはチアマゾール(MMI)とプロピルチオウラシル(PTU)の2薬剤がありますが、甲状腺機能亢進症に対する有効性と副作用の観点から、日本甲状腺学会編のバセドウ病治療に関するガイドラインではMMIを第1選択薬とすることを推奨してきています。一方、以前からMMI服用バセドウ病患者の新生児に頭皮欠損、臍帯ヘルニアなどの奇形の報告があり、とくに臍腸管遺残、気管食道瘻、食道閉鎖症、後鼻孔閉鎖症等重篤な奇形を含むMMI embryopathy (MMI奇形症候群)と称せられる症候群とMMIとの関連性を疑う報告が発表されてからは、妊娠バセドウ病患者にどちらの抗甲状腺薬を使用すべきか、非常に難しい問題となってきました。「バセドウ病治療ガイドライン2011」では、MMI奇形症候群を裏付ける根拠は十分ではないものの、万一の場合の母親の精神的ケアの点も考慮し、「妊娠初期、少なくとも妊娠4～7週はMMIを使用しないほうが無難である。」とのステートメントとなっています。今回、我が国で進行中の多施設前向きコホート研究「妊娠初期に投与されたチアマゾールの妊娠結果に与える影響に関する前向き研究(Pregnancy Outcomes of Exposure to Methimazole Study: POEMスタディ)」グループから、妊娠初期のMMI継続曝露がMMI奇形症候群の発生、特に臍関連奇形と密接な関連性があることを示す中間結果が報告されました。前向きコホート研究で初めて明らかにされたこの結果をふまえ、可能な限り妊娠初期のMMI継続は回避されるよう、甲状腺疾患の診療に当たられる医療機関の皆さまに改めて注意を喚起したいと思います。

POEMスタディの中間結果によりますと、MMI群の関連奇形発生頻度は85生産児中5例(95%信頼区間: 1.9–13.2%)と、予測される一般発生頻度の0.1%に比較して極めて高率でありました。5例とも妊娠成立前から妊娠12週までのMMI継続曝露例であり、全ての症例に臍関連奇形をみとめ、1例は頭皮欠損合併症例でした。一方、PTU群121例および抗甲状腺薬非曝露群83例、MMI群のうち妊娠12週までにMMIを中止または他剤に変更した38例の生産児には同類の奇形発生は認めませんでした。しかし妊娠初期PTU曝露やバセドウ病自体とこれらの先天異常発生との関連性や、妊娠判明後早期のMMI中止で当該先天異常発生が回避できるか等について検討するためには症例数がまだ十分ではありません。最終結論は、2014年に予定されていますPOEMスタディの最終報告を待ちたいと考えています。(POEMスタディ中間報告結果、患者用説明文、製薬会社安全情報については下記ウェブサイトをご参照下さい。)

現時点における、チアマゾール奇形症候群の発生を最小限に回避するための我々の考え方を以下に示します。

- バセドウ病による妊娠への悪影響を避けるためには、妊娠前に抗甲状腺薬やその他の方法で甲状腺機能のコントロールを十分に行うことが重要である。その際、妊娠初期のチアマゾール内服をできるだけ避けるために、妊娠は計画的に行う必要がある。チアマゾールの服用を継続しながら妊娠する場合には、基礎体温測定と市販の妊娠診断薬等で妊娠の早期確認を指導し、妊娠が判明した時点でチアマゾール内服を中止して直ちに来院させる。可能な限りチアマゾールは中止し、必要であればプロピルチオウラシルや無機ヨウ素に変更する。
- 副作用などでチウラジールが使用できない場合や、抗甲状腺薬治療では甲状腺機能を正常化できない場合には、手術やアイソトープ治療によって甲状腺機能を正常化させてから妊娠する方法を考慮する。
- 妊娠中に抗甲状腺薬を開始する場合には、妊娠初期\*はプロピルチオウラシルを第1選択薬とするが、妊娠中期以降であれば副作用や効果の観点からチアマゾールを第1選択薬とする。  
\*後鼻孔閉鎖・食道閉鎖発生の時期は妊娠7週まで、臍関連奇形発生の時期は妊娠9週まで、頭皮欠損発生の時期は15週までと考えられている。
- プロピルチオウラシルが副作用などで使えないなどの理由で、妊娠初期にチアマゾールを継続する場合には、臍関連奇形その他のチアマゾール関連先天異常合併のリスクに関して患者にカウンセリングを受ける方法があることを知らせる(妊娠と薬情報センターホームページ参照: URL: <http://www.ncchd.go.jp/kusuri/>)

1. 「妊娠初期に投与されたチアマゾール(MMI)の妊娠結果に与える影響に関する前向き研究(Pregnancy Outcomes of Exposure to Methimazole Study: POEM study): 中間報告について」(URL: <http://www.ncchd.go.jp/kusuri/>)
2. 「妊娠初期に内服した抗甲状腺薬が赤ちゃんに与える影響の調査」(POEMスタディ)とその中間結果から今後妊娠する際のご注意 (患者用説明文)(URL: <http://www.japanthyroid.jp/public/information/index.html>)
3. 「安全性情報: チアマゾールによる先天異常について」(URL: [http://chugai-pharm.jp/hc/ss/pr/drug/news/detail/1259597529545/1.html?cmp=others&cha=gakkai\\_banner&seg=jta\\_1111](http://chugai-pharm.jp/hc/ss/pr/drug/news/detail/1259597529545/1.html?cmp=others&cha=gakkai_banner&seg=jta_1111) (11月28日オープン予定))

2011年11月30日

日本甲状腺学会「バセドウ病薬物治療ガイドライン」作成委員会  
委員長 中村 浩淑

「妊娠初期に投与された抗甲状腺薬の妊娠結果に与える影響に関する前向き研究  
(Pregnancy Outcomes of Exposure to Methimazole Study: POEM Study)」  
グループ研究代表者 荒田 尚子

[↑ ページ先頭へ戻る](#)

[HOME](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#) |

**日本甲状腺学会事務局**

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659  
烏丸中央ビル6Fコングレ京都支店内  
TEL:075-212-0690 FAX:075-212-0691  
E-mail:[jta@congre.co.jp](mailto:jta@congre.co.jp)



[ロゴについて](#)

## セカンドオピニオン実績

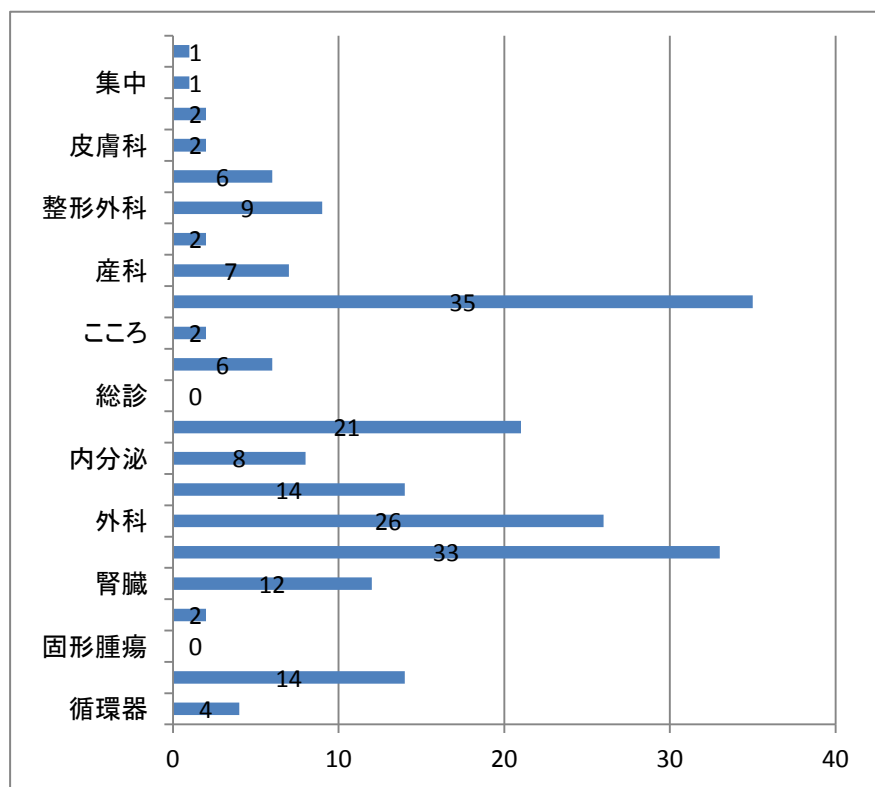
\* 実績件数99件 (延対応医師数112名 延対応診療科215件)

No	相談日	科	医師名	疾患名	前病院
1	4/18	血	森	悪性リンパ腫	慶應
2	4/28	脳	荻原	AT/RT	筑波大学
3	5/9	産	久保	風疹	あさま総合病院
4	5/12	消化	新井	肝障害 乳び胸水	旭川医科大学病院
5	5/12	神	久保田	てんかん	日大光が丘
6	5/16	消化	新井	血便	慈恵第3
7	5/16	感染	斎藤	先天性トキソプラズマ	日本医大
8	5/17	血 放 脳	清谷 正木 荻原	上皮腫	順天堂医院
9	5/18	血	森	パーキットリンパ腫	東京医科大学
10	5/23	整形	高山	骨切り後偽関節	神奈川こども
11	5/23	内分泌	堀川	SOD	千葉大学
12	6/1	病理	中澤	若年性黄色肉芽腫症	埼玉医大
13	6/9	神経	久保田	精神運動発達遅滞	宮城県立こども病院
14	6/14	血	森	T細胞性リンパ腫	東北大学
15	6/16	腎	イトウ	IgA腎症	武蔵野日赤
16	6/16	放	正木	副腎神経芽腫	杏林
17	6/23	産	久保	風疹抗体+	こまざわレディースクリニック
18	6/27	呼吸	川崎	気管軟化症	横浜市大総合医療
19	6/29	循	賀藤	DORV 再セカンド	順天堂病院
20	6/30	腎	イトウ	ネフローゼ	聖マリ
21	7/1	アレ	大矢	アナフィラキシー	順天堂お茶ノ水
22	7/4	内	堀川	低アルギニン尿	埼玉小児病院
23	7/5	外	金森	胸脂肪芽腫	千葉こども
24	7/14	神	久保田	てんかん	武蔵野日赤
25	7/25	内	堀川	急性化膿性甲状腺炎	新潟市民病院阿部
26	7/26	外	金森	後腹膜腫瘍	都立小児
27	8/2	脳	荻原	脳動脈奇形	日大光が丘
28	8/9	外	金森	腸閉鎖疑い	順天堂医院
29	8/9	外	藤野	後頸部腫瘍	川口市立医療センター
30	8/11	神経	久保田	てんかん	つる市立病院
31	8/11	外	藤野	リンパ管腫(3歳時)	群馬大学
32	8/15	消化・移植	新井・笠原	門脈管狭窄	神戸大学
33	8/17	産	クボ	風疹抗体+	マドモアゼル
34	8/18	脳	荻原	キアリ奇形	慈恵医科大
35	8/23	呼	川崎	喉頭蓋浮腫	金沢医療センター 金沢医科大学
36	9/6	脳外	荻原	頭蓋骨骨折後の治療	聖路加
37	9/7	皮膚	新関	後頭部黒いあざ	昭和大学藤が丘
38	9/8	神	久保田	てんかん 偏頭痛	都立大塚病院
39	9/8	腫瘍 脳外 放射線	清谷 荻原 正木	パピ上皮腫	北里
40	9/12	消化器・アレルギー	新井・野村	好酸球性腸炎	盛岡こどもHP
41	9/22	腫瘍	清谷	卵巣未分化胚細胞腫	東邦大森
42	9/22	腫瘍	清谷	おおもん筋肉腫	九州かんセンター
43	9/29	脳外	荻原	小脳腫瘍	東京医科歯科
44	10/6	消化器	新井	クローン病	公立昭和病院
45	10/11	腫瘍	森	神経芽細胞腫	福島 こうりやま
46	10/11	脳外	荻原	くも膜下のう胞	武蔵野日赤
47	10/13	神経	久保田	低O2脳症	自治医大
48	10/18	腫瘍	森	肝芽腫	昭和藤が丘
49	10/31	消化	新井	消化管ポリープ	東京労災病院
50	11/1	こころ	宮尾	摂食障害	山梨県立北病院
51	11/2	放射	正木	ウイルス	順天堂医院
52	11/8	脳・内	荻原・堀川	頭蓋咽頭腫	杏林大学
53	11/10	神経	久保田	足がしびれて歩けなくなる	女子医大
54	11/17	整形	関	先天性偽関節	慈恵医大
55	11/22	腫瘍	森	悪性リンパ腫	神奈川こども
56	11/24	脳	荻原	脳腫瘍	東大病院
57	11/24	脳	荻原	脊髄脂肪腫	埼玉医科大学
58	11/28	腫瘍	森	神経芽細胞腫	埼玉小児医療センター
59	11/29	腎	伊藤	ネフローゼ	横浜市北部病院
60	11/29	腫瘍	森	白血病	慶應病院
61	12/2	放・腫・外	正木・森・田中	肺芽腫	茨城こども
62	12/2	血液	石黒	血小板減少性紫斑病	都立大塚病院
63	12/7	アレ	大矢	喘息	日大光が丘
64	12/8	脳	荻原	神経因性膀胱	神奈川こども医療センター
65	12/14	循	賀藤	肺動脈弁狭窄症	筑波大学附属
66	12/15	呼吸	川崎	肺へモデローシス	アメリカ
67	12/16	産	久保	風疹抗体	昭和大
68	12/20	腎・腫	伊藤・森	両腎腫瘍	神奈川県こども
69	12/20	外	金森	乳腺腫瘍	聖マリ
70	12/20	外	金森	13トリソミー	聖マリ
71	12/21	放射	正木	胸膜肺芽腫	筑波大学
72	12/22	脳	荻原	脊椎終糸脂肪腫	愛知小児
73	1/10	外科	金森	腸ろうから胃瘻に	昭和大学
74	1/12	整形	関	下腿偽関節	千葉こども
75	1/12	神経	久保田	溺水後脳症	昭和藤が丘 小児外科
76	1/26	脳外	荻原	骨髄膜脳瘤	日赤医療センター
77	1/30	移植	笠原	肝臓未分化肉腫	中国医学科学院 腫瘍
78	1/31	腫瘍科	森	悪性リンパ腫	日大板橋
79	1/31	脳外	荻原	キアリ奇形	佐賀大学医学部 脳外
80	1/31	外科	金森	食道閉鎖	東京医科大学 小児科
81	2/1	移植	笠原	胆道閉鎖症	順天医学部 小児科
82	2/1	外科	藤野	肝血管腫	加古川病院
83	2/1	外科	藤野	手首血管腫	慈恵第3 整形外科
84	2/9	神経	久保田	てんかん	東京女子医大
85	2/20	腎	伊藤	ネフローゼ症候群	千葉こども病院
86	2/23	整形	関	脂肪繊維腫	千葉こども病院
87	2/24	集中	六車	喉頭狭窄	北里
88	2/24	整形・脳外	金子・師田	頭蓋縫合早期癒合	静岡こども病院
89	2/27	腫瘍科	森	ウイルス腫瘍	埼玉小児医療センター
90	2/28	脳外	荻原	脳内出血	都立総合医療センター
91	3/8	神経	久保田	髄膜炎後脳症	北里大学
92	3/8	神経	久保田	無熱性けいれん	博慈会記念病院
93	3/12	呼吸器	川崎	気管狭窄症の疑	川崎市立多摩
94	3/13	腎	伊藤	SLE	都立小児医療センター
95	3/13	腫瘍・外	森・金森	縦隔腫瘍	福島県立医科大学
96	3/19	消化器	新井	潰瘍性大腸炎	山梨県立中央病院
97	3/22	脳外	師田	環軸椎亜脱臼	大田原赤十字病院
98	3/27	放射	正木	髄芽腫再発	東京大学医学部
99	3/29	消化器	新井	クローン病	横浜市立大学総合医療

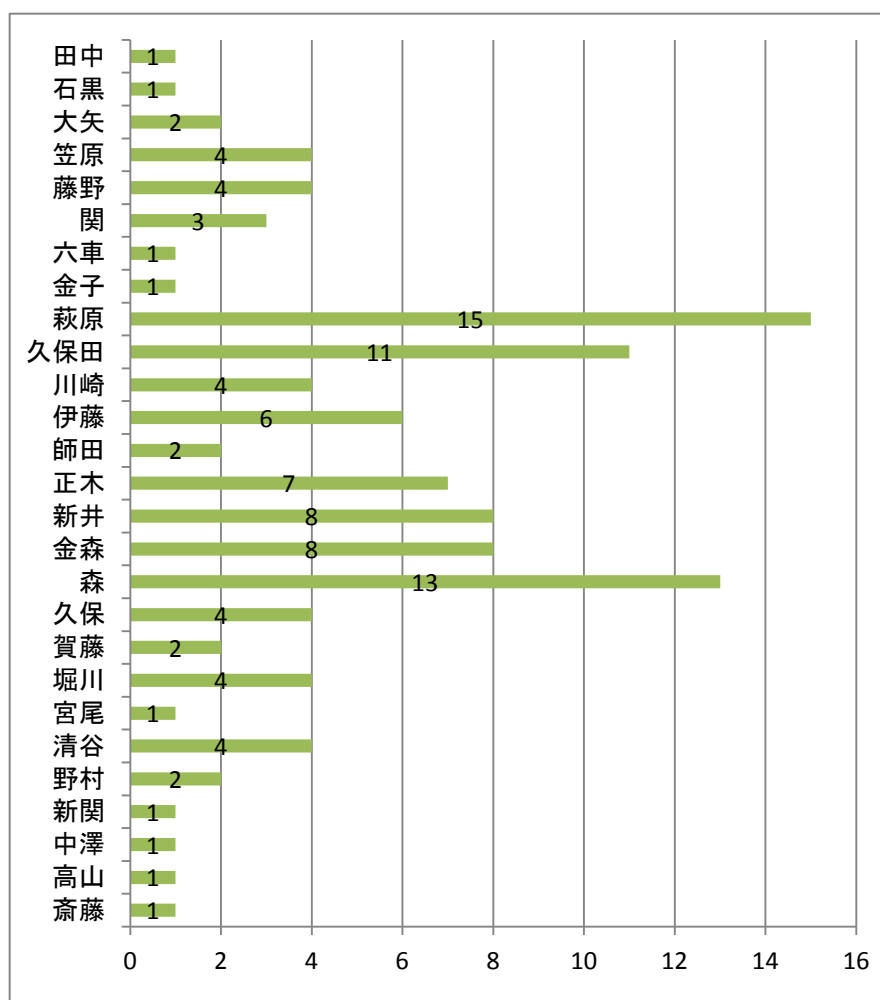
平成23年度セカンドオピニオン 実績

医療連携・患者支援センター  
平成24年5月作成

診療科	件数
呼吸器	8
循環器	4
消化器	14
固形腫瘍	0
病理	2
腎臓	12
血液腫瘍	33
外科	26
放射線科	14
内分泌	8
神経内科	21
総診	0
アレルギー	6
こころ	2
脳外	35
産科	7
感染	2
整形外科	9
移植	6
皮膚科	2
血液内科	2
集中	1
形成外科	1



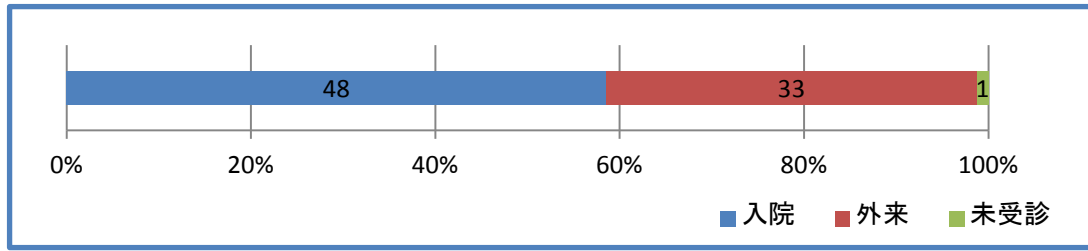
医師氏名	件数
1 斎藤	1
2 高山	1
3 中澤	1
4 新関	1
5 野村	2
6 清谷	4
7 宮尾	1
8 堀川	4
9 賀藤	2
10 久保	4
11 森	13
12 金森	8
13 新井	8
14 正木	7
15 師田	2
16 伊藤	6
17 川崎	4
18 久保田	11
19 萩原	15
20 金子	1
21 六車	1
22 関	3
23 藤野	4
24 笠原	4
25 大矢	2
26 石黒	1
27 田中	1



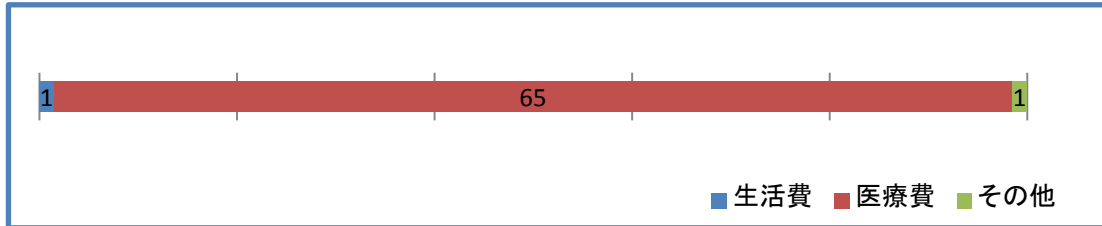
# MSW患者・家族相談窓口業務 実績報告



①入院・外来		
入院	外来	未受診
48	33	1

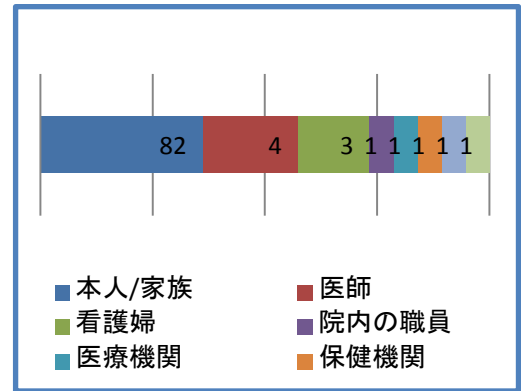


②経済		
生活費	医療費	その他
1	65	1



③方法					
面接・面談	電話相談	Tel連絡（对患者家族）	Tel連絡（対職員）	Tel連絡（対関係機関）	書信
62	13	5	7	4	1

④対象								
本人／家族	医師	看護婦	院内の職員	医療機関	保健機関	福祉機関・施設	学校・職場	その他
82	4	3	1	1	1	1		1



⑤心理・社会問題												
受診等の不安	社会的役割の維持	家族関係	DV	虐待・ネグレクト	虐待予防活動	育児支援	院内対人関係	地域内対人関係	障害・難病等の受容	遺族へのサポート	家族会等の紹介	その他
				1		7	2					

⑥処置							
方針協議	助言指導	心理的処遇	社会資源の活用	関係調整	情報提供・収集	コンサルテーション	その他
3	1	4	30	3	45		

⑦診療科別																										
総合診療科	救急	こころの診療部	内分泌・代謝科	循環器科	呼吸器科	消化器科	神経科	腎臓	アレルギー科	泌尿器	心臓血管外科	外科	脳神経外科	整形外科	耳鼻科	眼科	リハビリ	皮膚科	形成外科	歯科	遺伝科	腫瘍科	麻酔／集中治療部	新生児科	産科／胎児診療科	放射線
16	1	2	2	5	0	1	2	2	0	0	0	0	1	2	1	3	0	0	0	1	0	9	10	12	12	0



## 多職種（四職種以上）が参加 するカンファレンス一覧

多職種（四職種以上）が参加するカンファレンス一覧【平成23年度】

担当診療部・科	カンファレンス名	参加部門	週 回	年間開催数
周産期センター	母体支援カンファ	医師、助産師、MSW、臨床心理士	週1X	50
妊娠と薬情報	ケースカンファ	医師、薬剤師、臨床心理士、事務部門、研究所	週1X	50
臓器移植センター	肝臓カンファ	医師、臨床心理士、移植コーディネーター、研究所	週1x	50
RCT(呼吸療法)	ケースカンファ	医師、歯科衛生士、看護師、臨床工学士、理学療法士	週1X	50
緩和ケアチーム	ケースカンファ	医師、看護師、臨床心理士、薬剤師、MSW、CLS	月1X	12
CPC	解剖症例検討	医師、臨床検査技師、看護師、放射線技師	不定期	3
消化器科	栄養サポートチームカンファ	医師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床心理士	週1	45
総合診療部、医療連携患者支援センター	医療連携カンファアレンス	医師、看護師、MSW、事務職	月1X	12
手術集中治療部、総合診療部、呼吸器科	RCT(呼吸療法チーム)カンファ	医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、臨床工学技士、理学療法士	週1X	50
腫瘍科、手術集中治療部、総合診療部	緩和ケアカンファアレンス	医師、看護師、薬剤師、MSW、CLS	月1X	12
感染症科	感染対策チーム会議	医師、看護師、薬剤師、細菌検査技師	週1X	50
内分泌代謝科	糖尿病外来ケースカンファ	医師、糖尿病療養指導士、看護師、臨床心理士	月1X	10
腫瘍科	腫瘍外来カンファアレンス	医師、看護師、臨床心理士、MSW	週1X	40

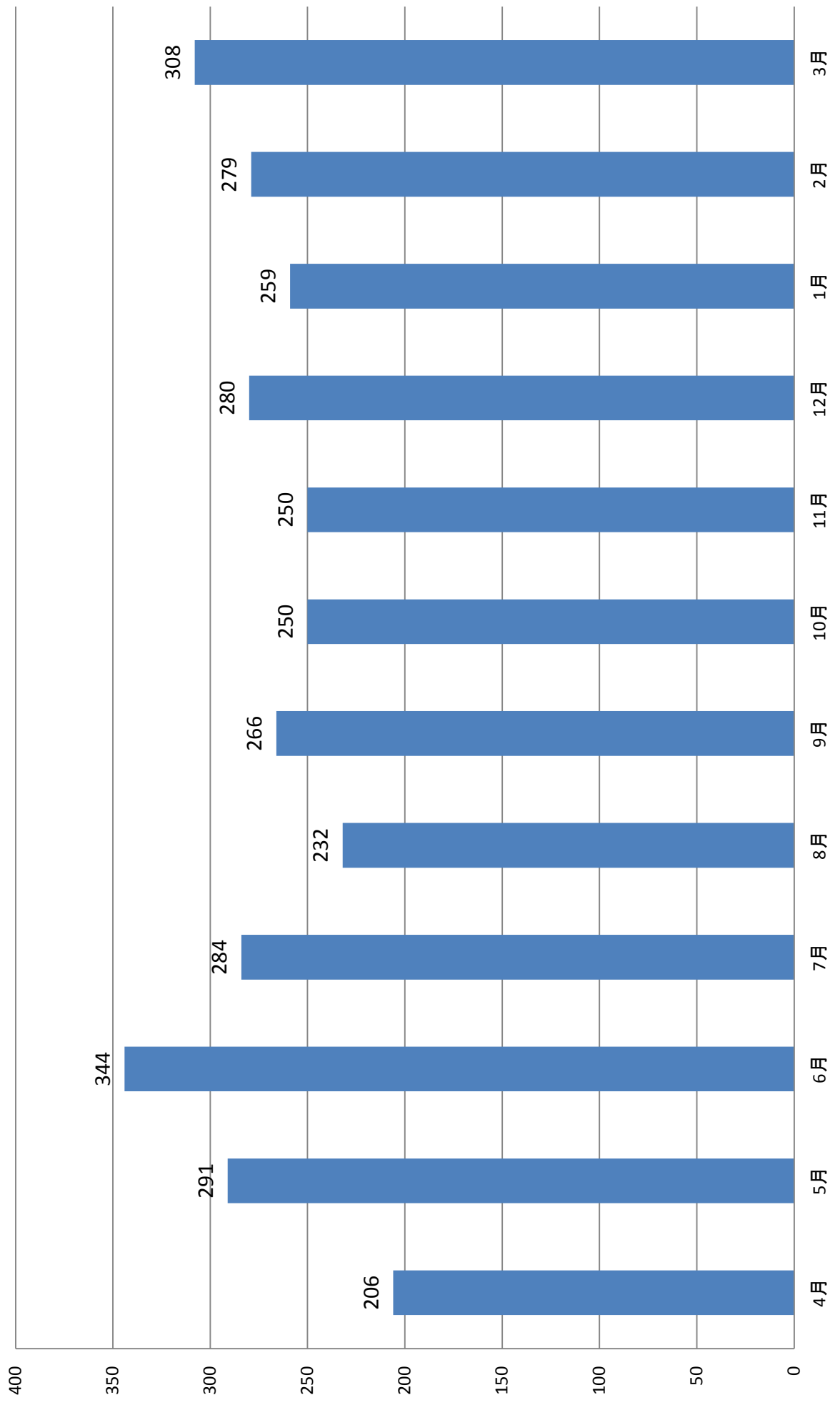
計 434

# インシデント・アクシデント 集計資料

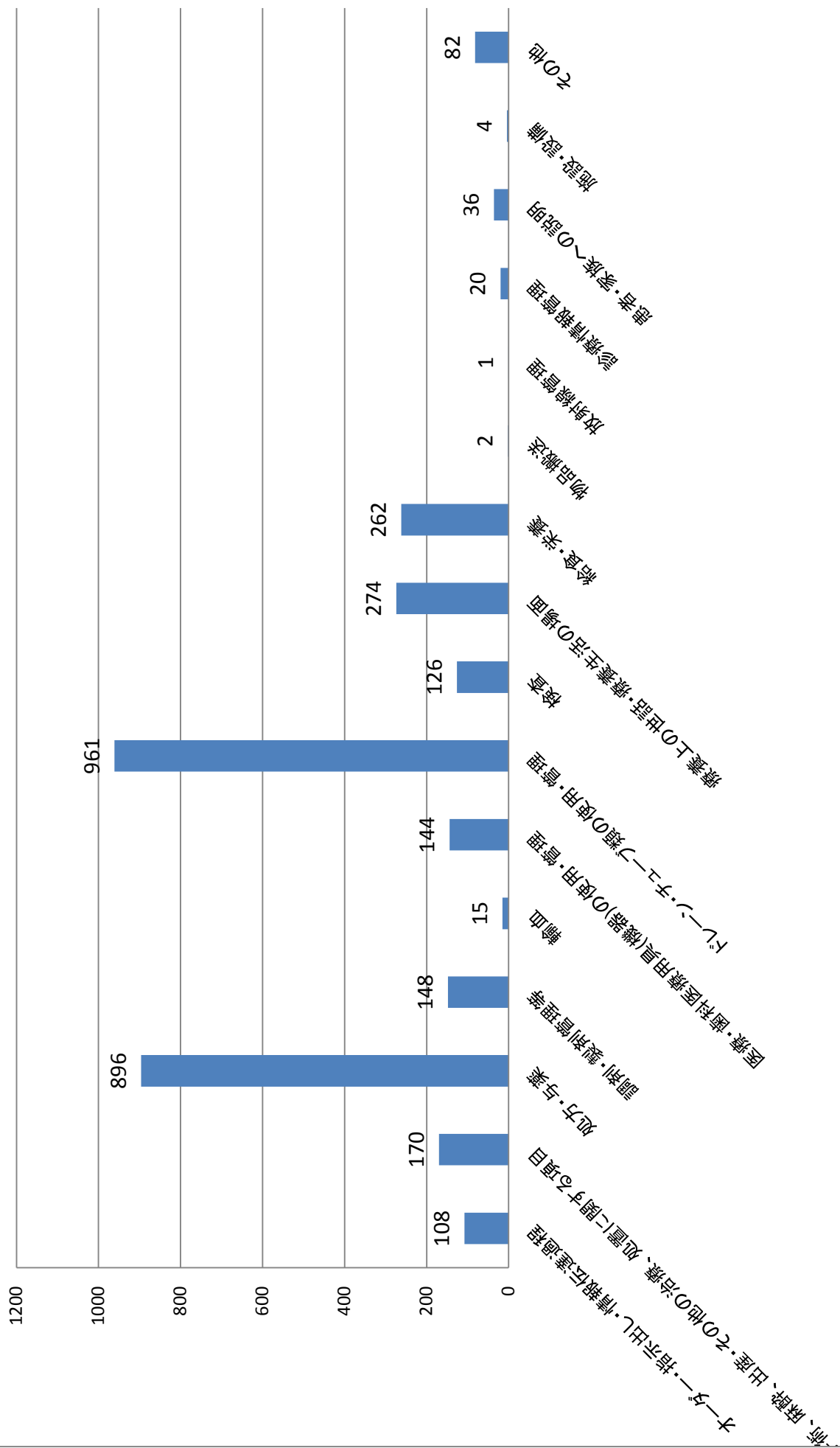
インシデント第一分類別報告者部署別分析  
 発生日 2011年04月01日～2012年03月31日  
 発案件数:3249件

	計	3249	32	17	19	78	3	8	1	1	1	22	13	91	8	93	1	260	307	89	127	184	157	210	155	204	203	267	230	108	41	220	5	2	
	計	3249	32	17	19	78	3	8	1	1	1	22	13	91	8	93	1	260	307	89	127	184	157	210	155	204	203	267	230	108	41	220	5	2	
オナー・指示出し・情報伝達過程	108	3	0	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	7	3	6	9	7	8	8	4	3	2	5	2	5	2	5	0	2	
診察、手術、麻酔、出産、その他の治療、処置に関する項目	170	1	1	8	14	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	7	8	8	7	3	2	2	1	4	1	1	3	2	80	0	0	
処方・与薬	896	10	7	3	14	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	108	61	35	46	49	38	69	59	84	48	108	72	46	14	0	1	0	
調剤・製剤管理等	148	1	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	89	0	0	0	12	4	2	1	2	0	1	12	3	1	1	5	2	3	0	0		
輸血	15	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医療・歯科医療用具(機器)の使用・管理	144	2	1	2	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	22	6	3	13	3	6	0	5	5	7	5	1	0	41	0	0	
ドレイン・チューブ類の使用・管理	961	2	4	3	10	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	92	149	4	11	57	57	71	64	67	106	103	84	14	7	34	0	0	
検査	126	1	0	0	6	1	2	0	0	0	0	18	0	0	2	0	0	2	4	12	20	1	4	2	0	5	3	7	13	11	1	0	0		
療養上の世話・療養生活の場面	274	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	7	7	2	8	23	39	26	9	17	20	15	38	4	0	52	0	0	
給食・栄養	262	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	89	0	15	33	1	4	18	6	15	1	22	8	16	13	14	2	0	0	0	
物品搬送	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
放射線管理	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診療情報管理	20	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	5	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	
患者・家族への説明	36	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4	2	5	2	3	1	1	3	2	1	1	0	0	0	0	
施設・設備	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	82	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	2	9	2	11	2	0	5	1	1	1	5	6	2	0	4	3	0	

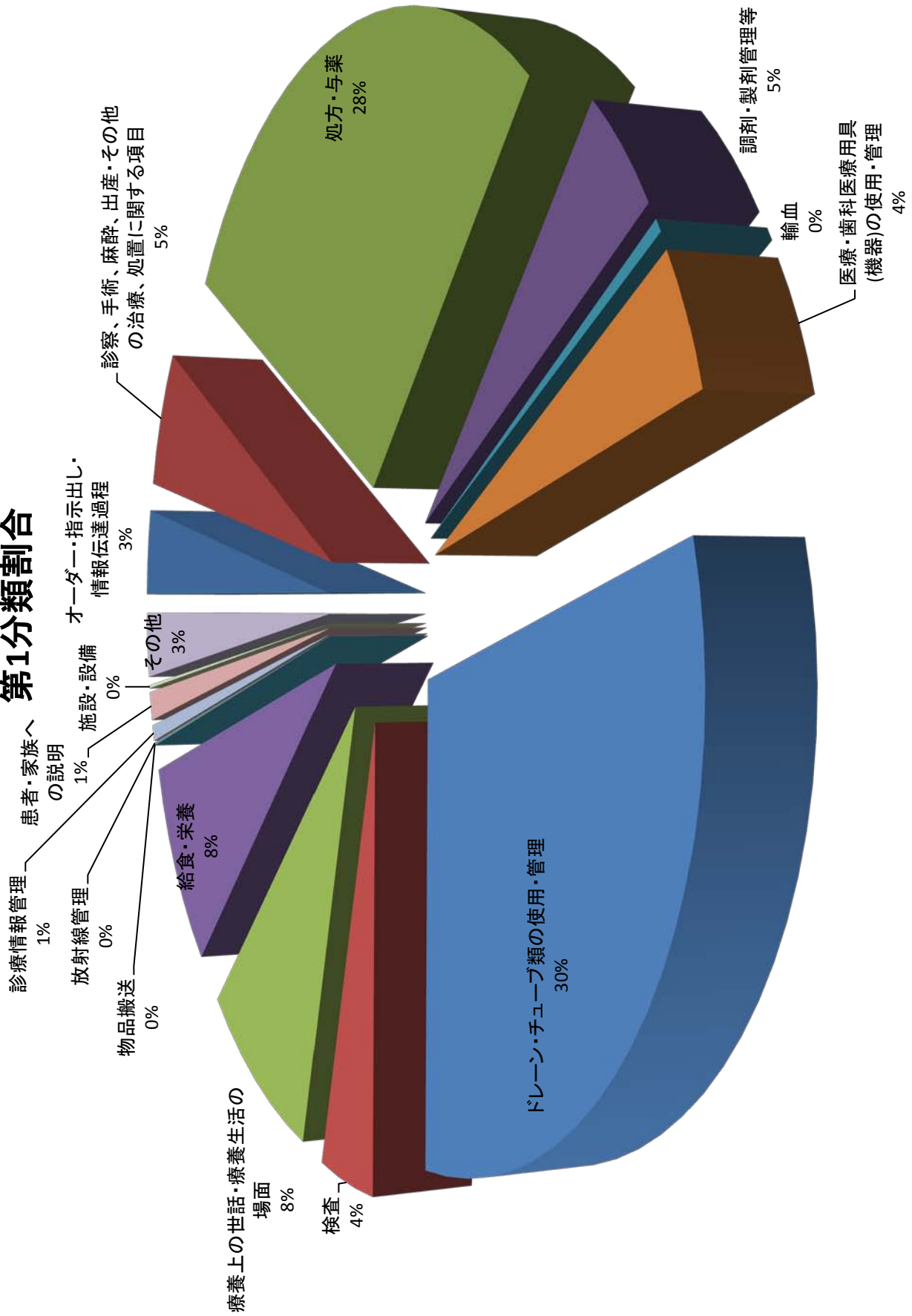
# インシデント・アクシデント総数



# 第1分類別件数

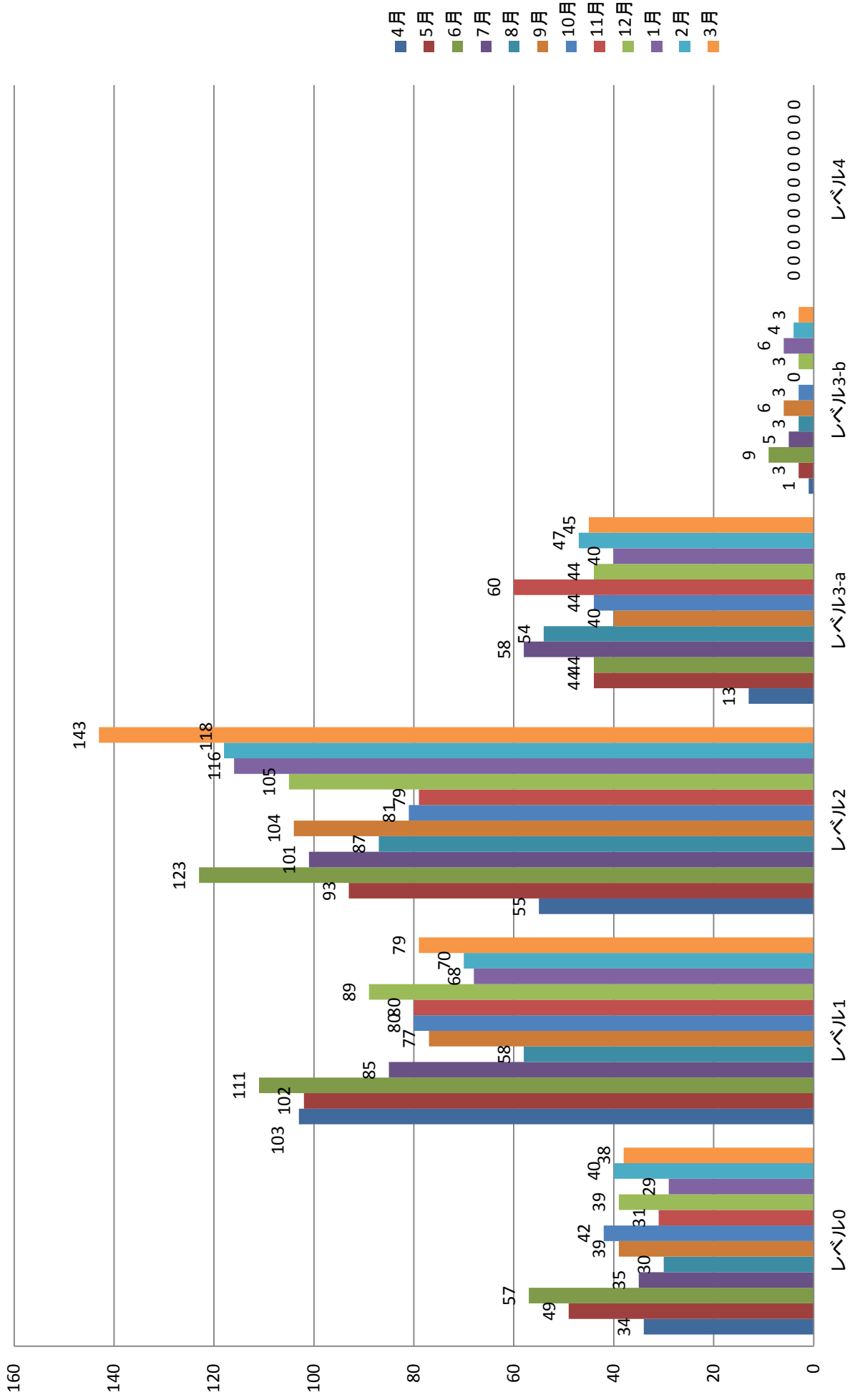


# 第1分類割合

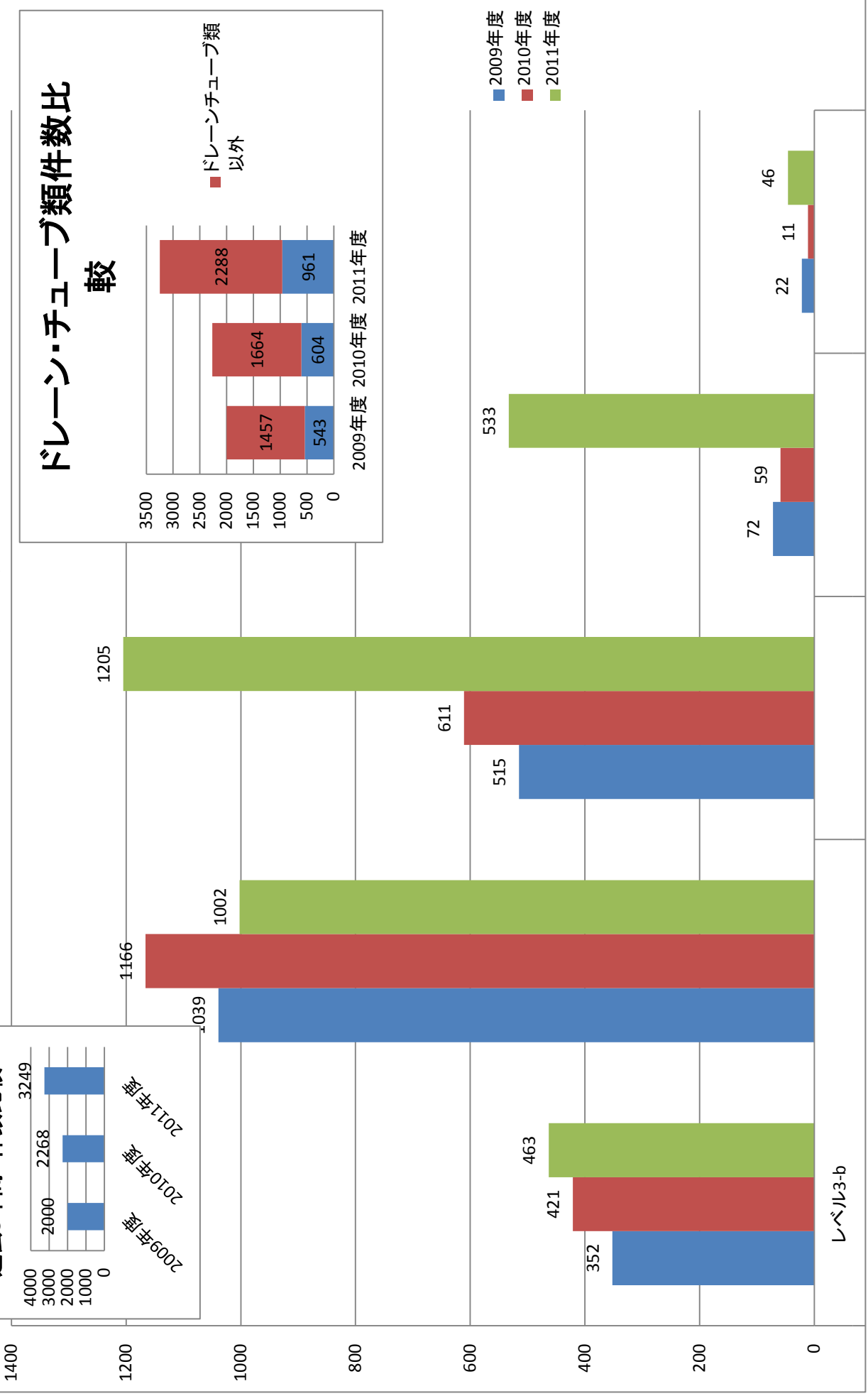




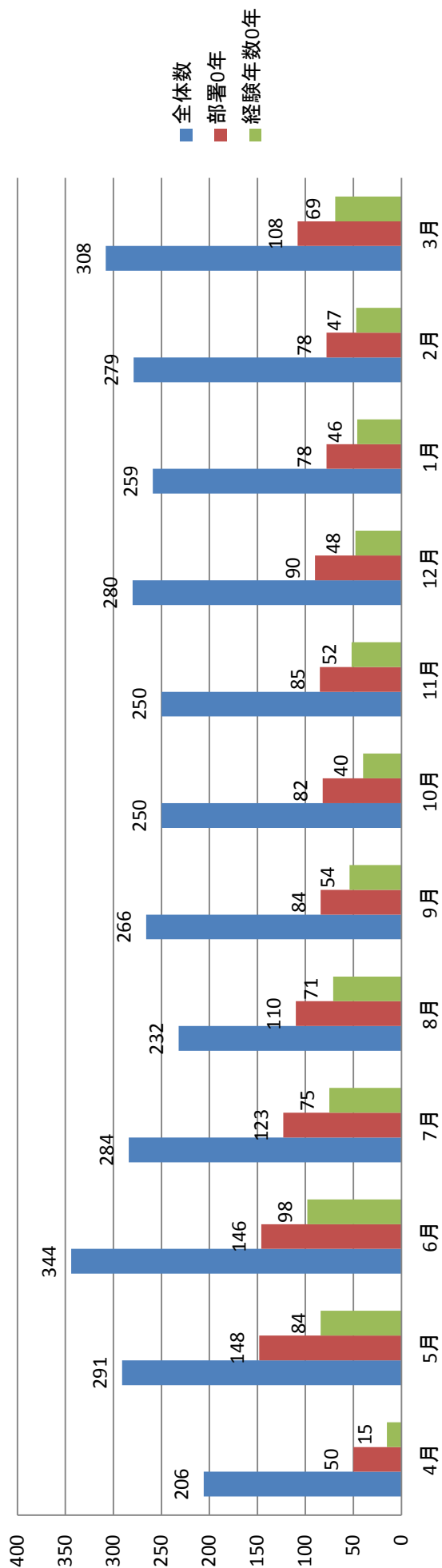
# 患者影響レベル件数



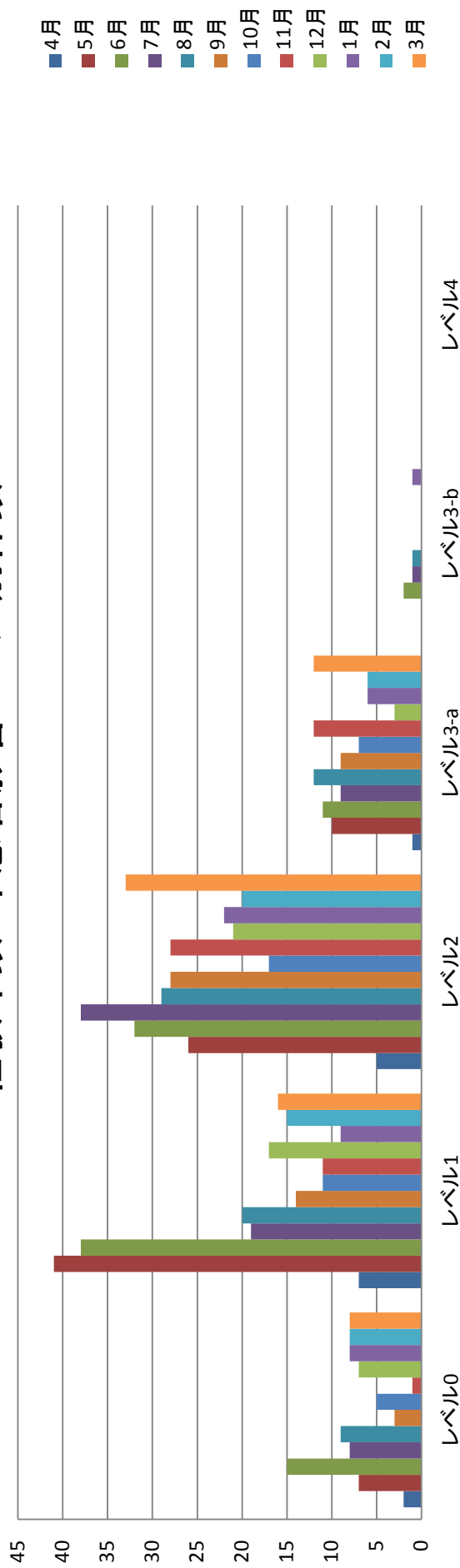
# 過去3年間 レベル件数比較



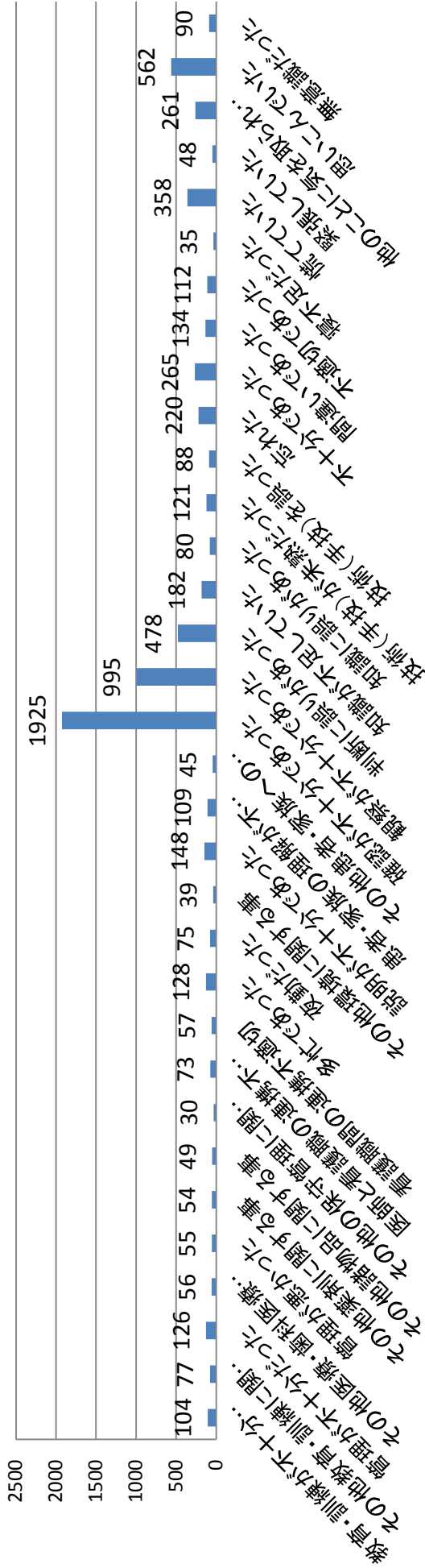
### 経験年数0年目/部署0年目件数/全体数



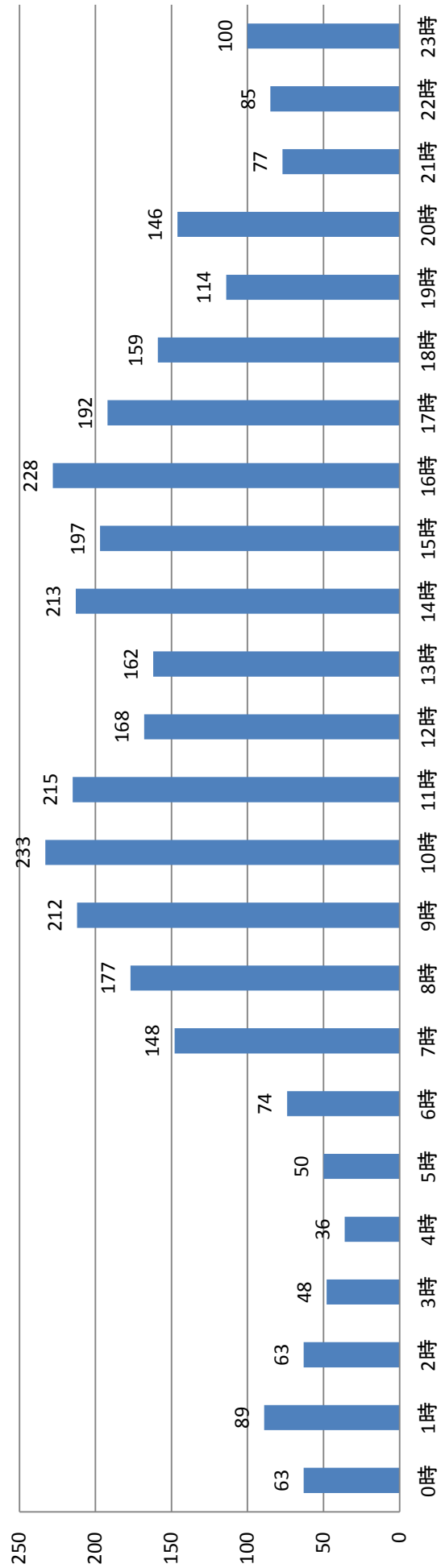
### 経験年数0年患者影響レベル別件数



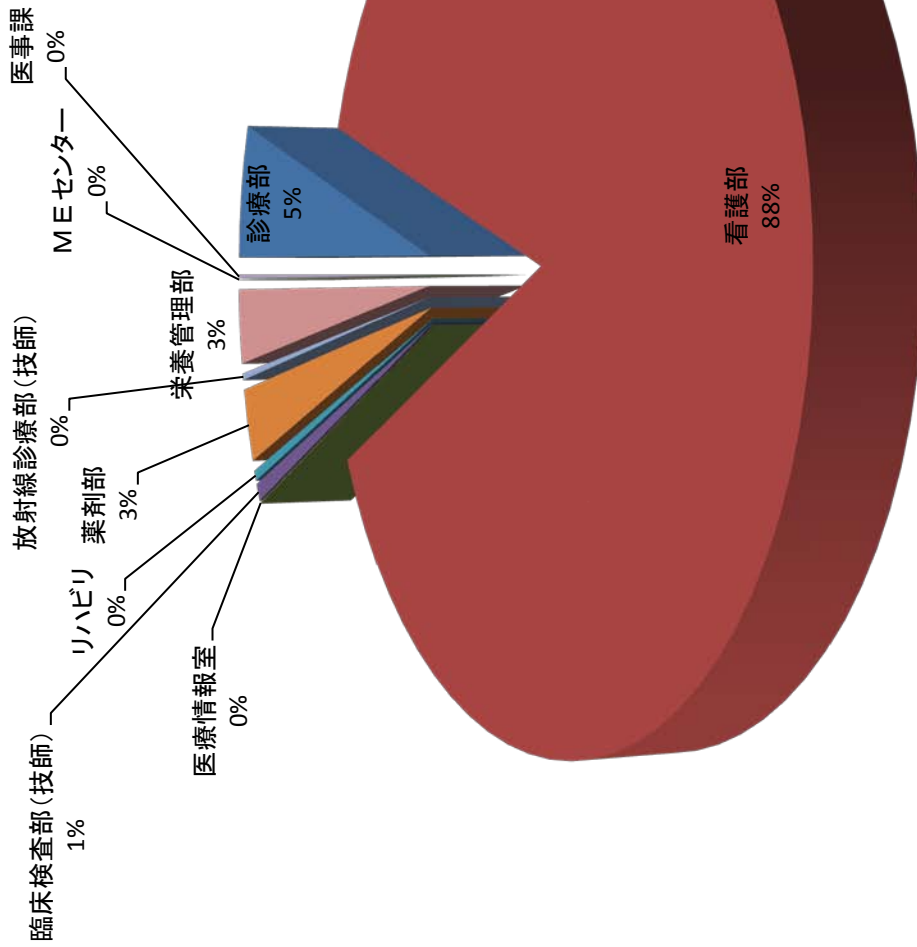
# 報告者要因別分類



# 時間帯別比較



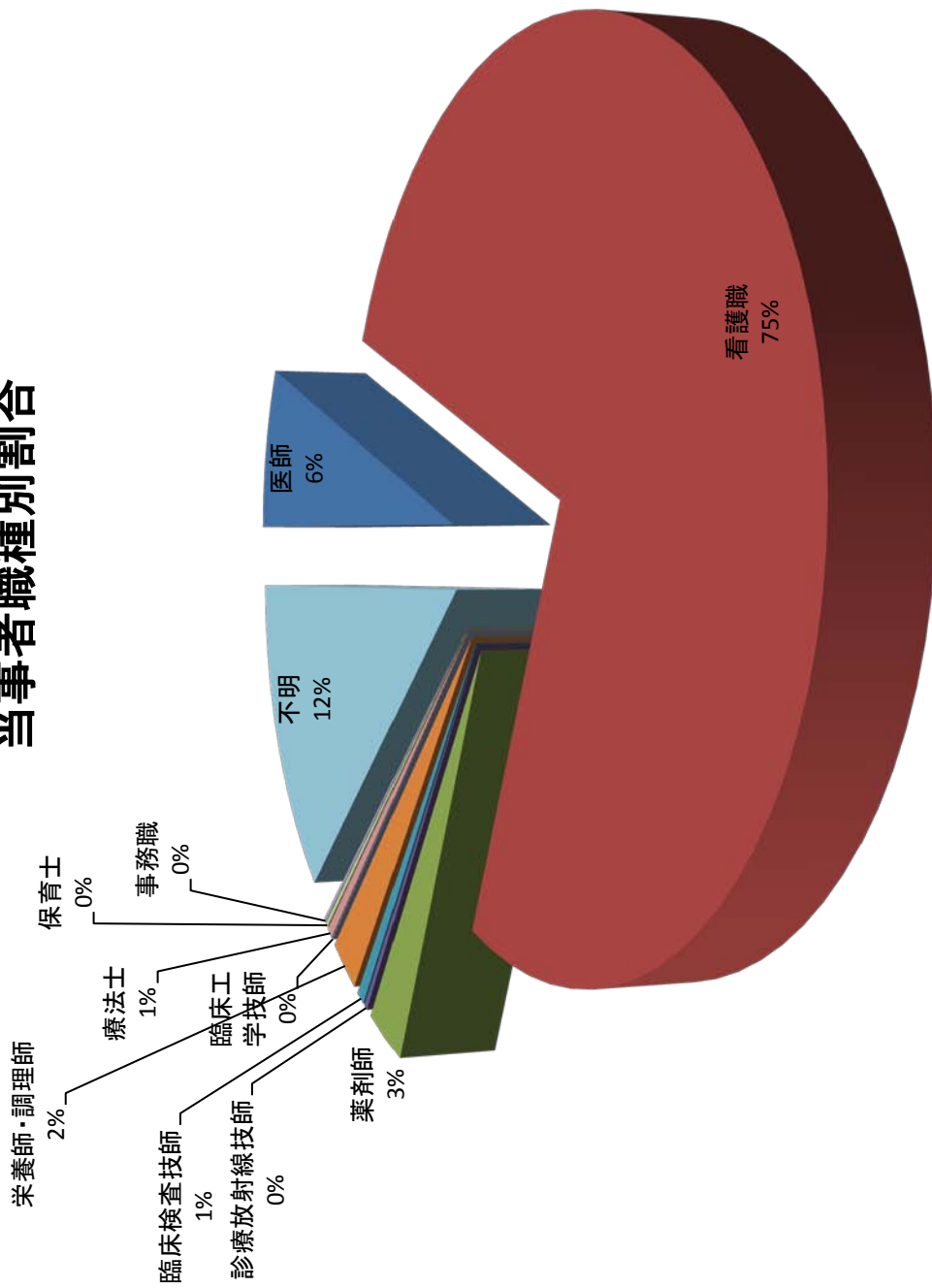
## 報告者部署別割合



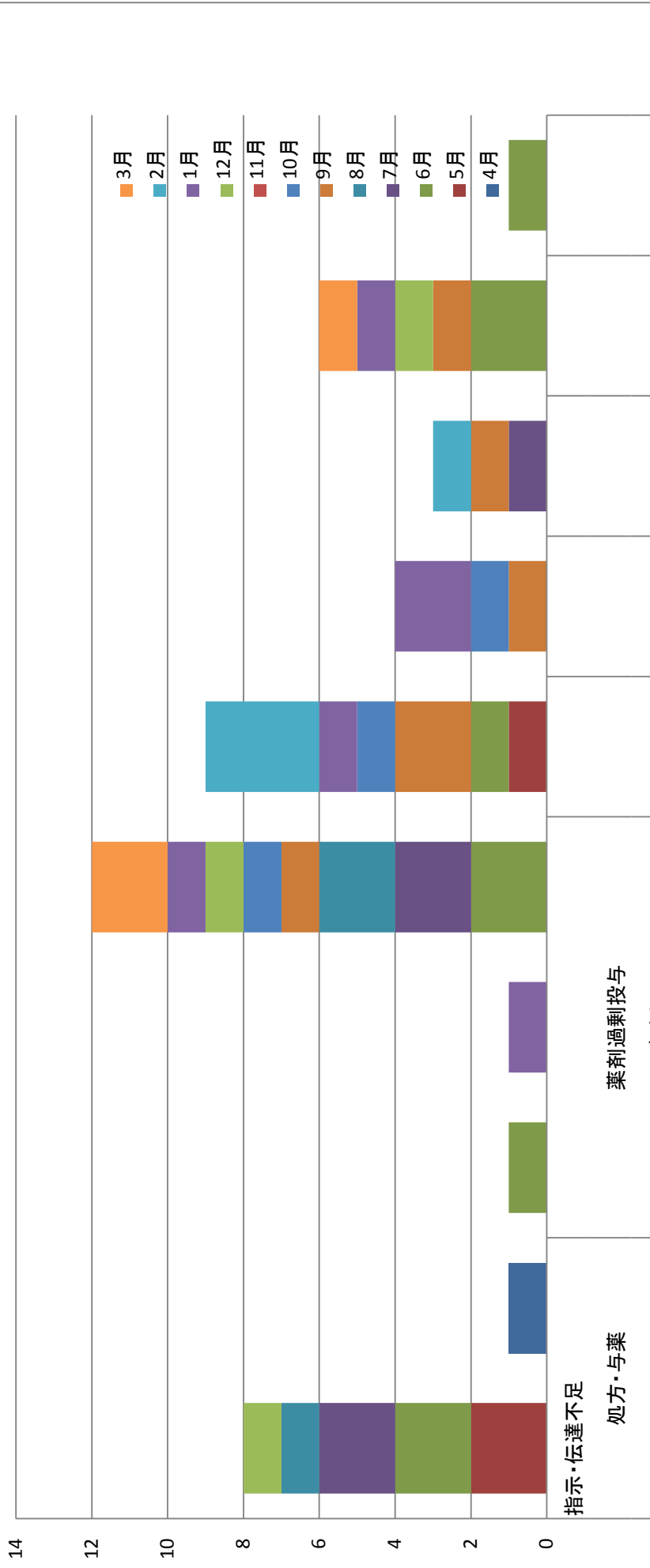
診療部	166
看護部	2849
薬剤部	91
臨床検査部(技師)	22
放射線診療部(技師)	8
栄養管理部	93
リハビリ	13
MEセンター	1
医事課	5
医療情報室	1
	3249

## 当事者職種別割合

医師	198
看護職	2446
薬剤師	86
診療放射線技師	8
臨床検査技師	19
栄養師・調理師	70
臨床工学技師	1
療法士	14
保育士	6
事務職	5
不明	396
	3249



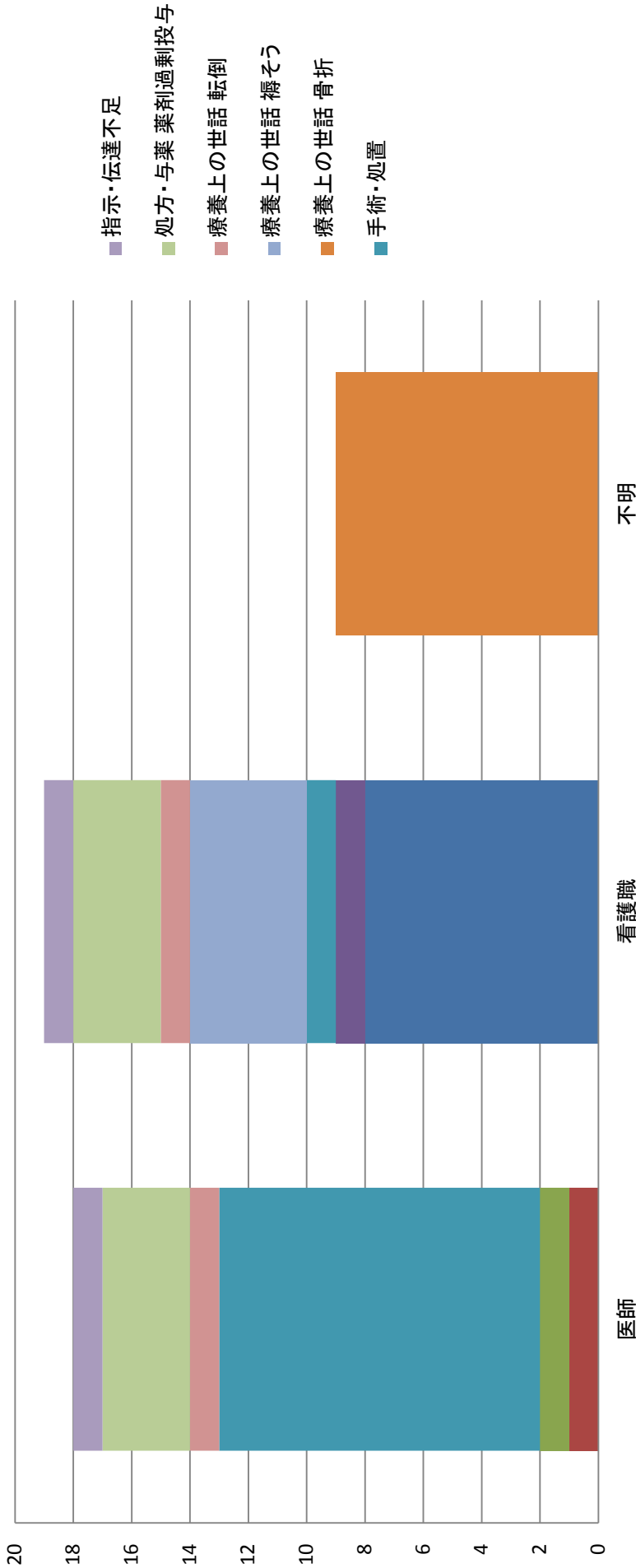
# 2012年度 3-bレベル内訳(2月現在)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
点滴漏れ	0	2	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0
ドレインチューブ類												
HDカテーテル抜去	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管カニューレ抜去	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸腔ドレイン抜去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
手術・処置	0	0	2	2	2	1	1	0	1	1	0	2
骨折	0	1	1	0	0	2	1	0	0	1	3	0
療養上の世話												
褥そう	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0
転倒	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0
処方・与薬	0	0	2	0	0	1	0	0	1	1	0	1
指示・伝達不足	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	3	9	5	3	6	3	0	3	6	4	3
												46

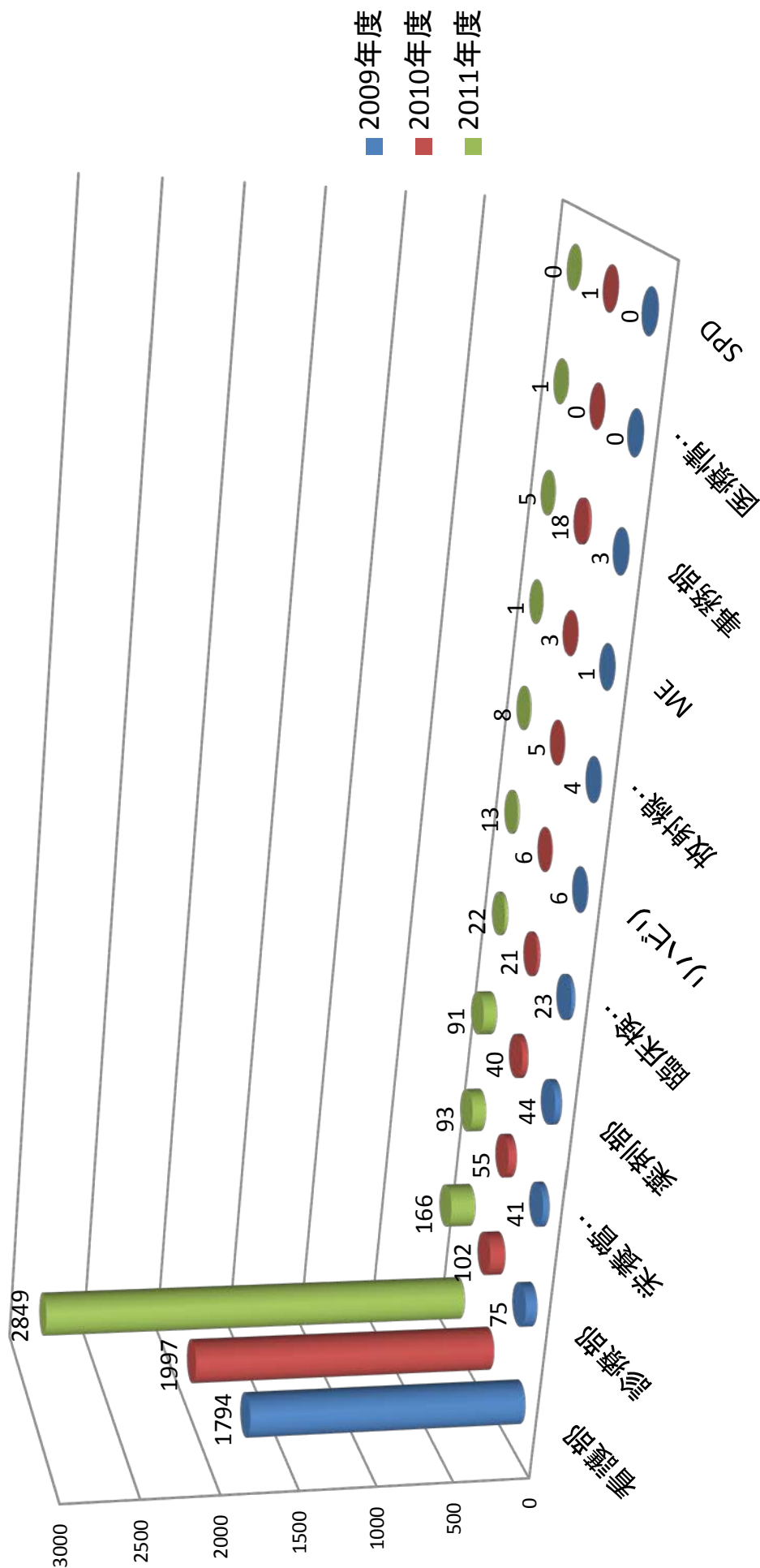


# 職種別件数内訳

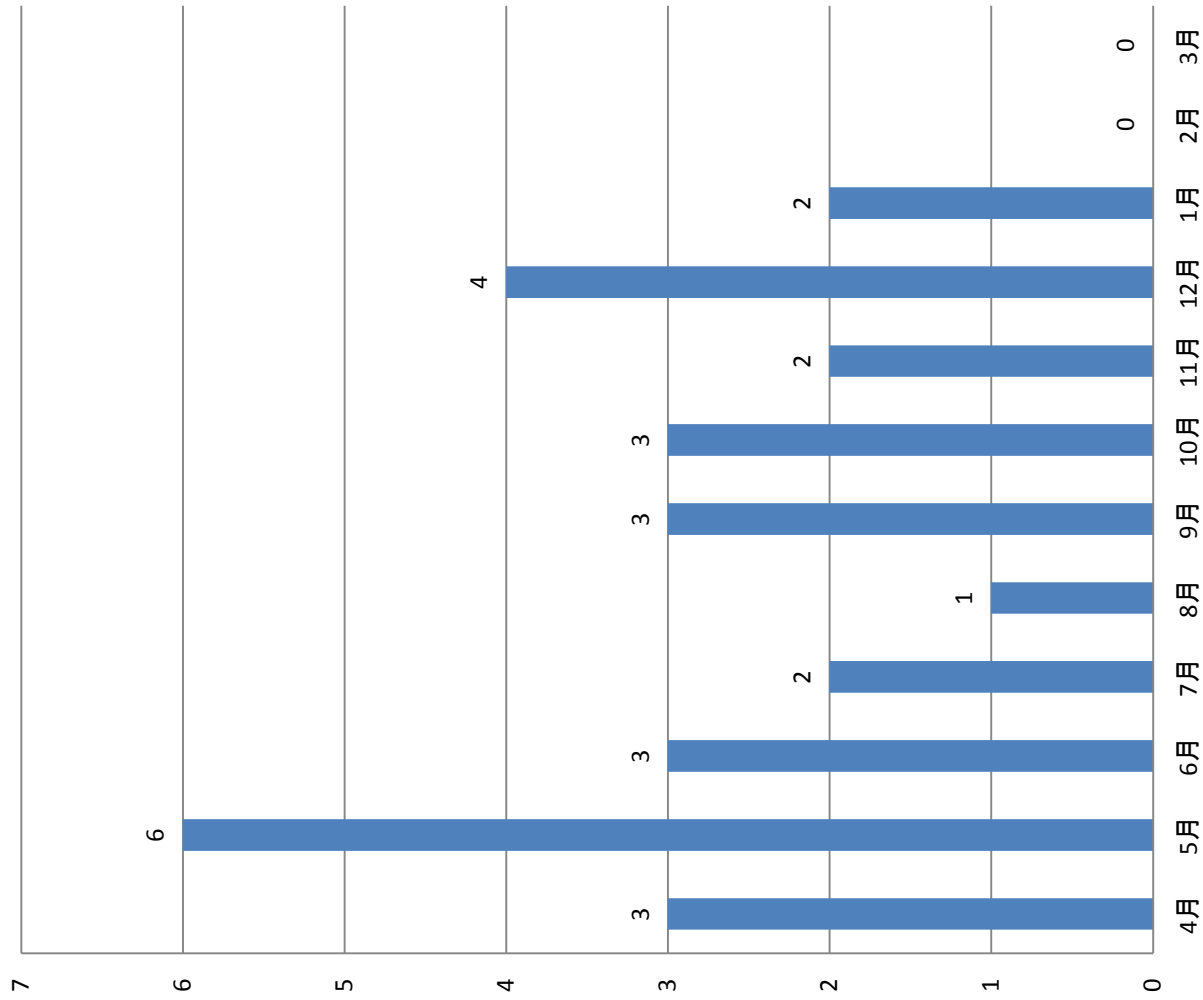


	医師	看護職	不明
点滴漏れ	0	8	0
ドレーンチューブ類	1	0	0
HD 除去	1	0	0
気管カニューレ除去	0	1	0
胸腔ドレーン	11	1	0
手術・処置	0	0	9
骨折	0	4	0
褥そう	1	1	0
転倒	3	3	0
薬剤過剰投与	1	1	0
指示・伝達不足	18	19	9
			46

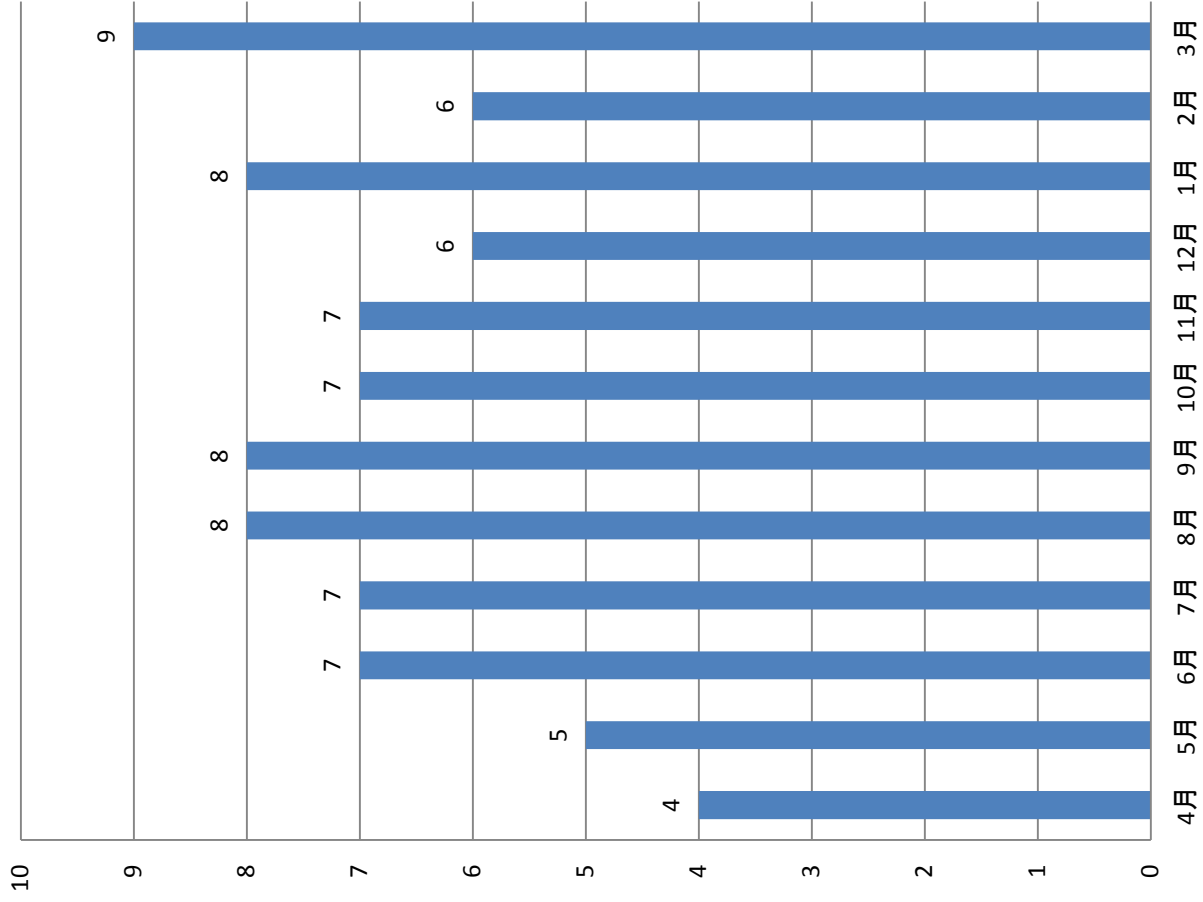
# 2009/2010/2011年度 報告部署別件数比較



## 針刺し事故



## コードブルー誤連絡



## 医療安全研修等開催状況

2011 年度 医療安全研修等

月	研修	その他
4/25 (月)	第 1 回医療安全感染対策研修会 「麻薬・向精神薬の取り扱い」 「感染情報システムの使用法」 「感染対策における細菌検査室の役割」 「感染対策における薬剤部の役割」	
6/21 (月)		医療安全週間活動 6/20 (月)～6/24 (金) 医療安全標語・院内パトロール・
7/19 (月)	第 2 回医療安全感染対策研修会 「ヒヤリ・ハット劇場」	
9/20 (月)	第 3 回医療安全感染対策研修会 「インシデントレポート KYT 研修」	
10/17 (月)	第 4 回医療安全感染対策研修会 「感染対策」	
11/21 (月)		医療安全週間活動 11/21 (月)～11/28 (月) 医療安全標語 院内パトロール 12/1 (木)～12/7 (水)
12/21 (水)	医療安全の日医療安全感染対策研修会 講演会 (院外講師) 「医療過誤の背景にある患者・家族の思 い」講師：柳原三佳先生	
2/17 (月)	第 5 回医療安全感染対策研修会 「感染対策」	
2/28 (火)	第 6 回医療安全感染対策研修会 講演会 (院外講師) 「医療事故・クレームへの対応について」 講師：桑原博道先生	

# 医療安全ポケットマニュアル

# 医療安全 ポケットマニュアル

Vol.1



独立行政法人  
国立成育医療研究センター  
National Center for Child Health and Development



## 顔の見える関係を

医療安全においてもっとも大切なことは、医療従事者としての自覚を持ち、何事も行動に移す前に「確認」を怠らないことです。

職員の皆様は、何事も実際に行動に移す前に「指差し呼称」を実行しているでしょうか？ 頭でわかっているだけでは足りません。実際に行動に移して初めて、本当の意味での「確認」といえます。

めざましい勢いで先進的な医療技術が進歩している昨今、ほんの少しの油断や思い込みが、大きな事故につながる可能性があります。しかしながら、医療の安全を一人で築くことはできません。まずは、さまざまな職種の方々が相互にコミュニケーションをとることが重要です。

当センターには、さまざまな理由で、たくさんの生殖・妊娠関連の方や、子どもたちとその家族がお越しになります。希望ある未来を担う子どもたちとその家族を守るためにも、今日、明日から私たち自身ができることを実行しようではありませんか。

このポケットマニュアルを当センターの職員の皆様が携帯することで、職員同士の真に顔の見える関係が構築され、その結果として、良好な医療安全が実現されることを切に願っています。

平成 23 年 1 月

独立行政法人国立成育医療研究センター病院

副院長・医療安全管理室長

北川道弘

チーフリスクマネージャー

橋本圭司

医療安全ポケットマニュアル Vol. 1 目次

顔の見える関係を	1
I 独立行政法人国立成育医療研究センター 職員の行動宣言	6
1. 私たち職員の行動宣言	7
1) 社会からの要請に対して 7/ 2) 患者・家族に対して 7/ 3) センターの一員として 8	
II 国立成育医療研究センター「こどもと家族の憲章」	9
III 診療にあたって心がけるべき15か条	10
IV 個人情報保護に関する事項	13
1. 個人情報の利用について	13
2. 個人情報の取り扱いにおける禁止事項	13
3. 問題発生時の対応	14
V 医療従事者からの十分な説明と、子どもと家族の理解に基づく同意	15
1. インフォームド・コンセント	15
1) インフォームド・コンセントの前提 15/ 2) 子どもを対象としたインフォームド・コンセントの限界 15	
2. インフォームド・アセント	15
1) インフォームド・アセントとは 16/ 2) インフォームド・アセントの実践に必要な要素 16	
3. インフォームド・アセントの実際	16
1) 情報の整理とアセスメント 16/ 2) 説明内容に盛り込むことが検討されるべき項目 17/ 3) 説明するときの留意点 17/ 4) 説明したあとの留意点 18/ 5) 子どもと家族が意思決定したあとの留意点 18	
VI 患者・家族等クレームに対する対応	20
VII 安全管理体制	21
1. 医療安全管理のための指針	21
1) 医療安全管理に関する基本的な考え方 21	
2. 医療安全管理体制	22

3. インシデント・アクシデント発生時の報告	24
1) インシデント発生時 24/ 2) アクシデント発生時 24	
4. インシデントレポートで報告すべき範囲	25
1) 用語の定義 25/ 2) 事故の重篤度(患者影響レベル) 26	
5. 患者の障害発生, または重大事故発生時の対応	26
1) 発生直後の対応 26/ 2) 患者・家族への説明 27/ 3) 事故の記録 27	
6. 緊急時の対応	28
1) コードブルー 28/ 2) 院内における患者・家族・スタッフ急変時の対応フロー 29/ 3) 緊急機器設置体制 30/ 4) 院内当直体制 33/ 5) 心肺蘇生 34/ 6) AEDの使用法 37	
7. 院内感染症の基本的予防対策	40
1) 院内感染対策基本予防策 40/ 2) 当院で、届け出が必要な感染症 42/ 3) 手洗い方法 43/ 4) エプロンの着脱 44/ 5) 感染隔離 46/ 6) 針刺し事故後フローチャート 48/ 7) 院内で食中毒が発生した場合 50	
8. カルテ開示方法	51
9. 異状死の届け出の判断基準	52
10. 自宅等で死亡等した患者に関する警察からの問い合わせについて	53
1) 平日勤務時間内 53/ 2) 平日時間外, 休日(日当直体制時) 53	
VIII 安全・確実な医療を行うためのルール	54
1. 安全上好ましい服装	54
1) 清潔であること 54/ 2) 服装 54/ 3) 華美すぎないこと 54	
2. 患者確認	55
1) 氏名表示の徹底 55/ 2) 患者の確認 55/ 3) リストバンド装着 55	
3. 口頭指示	56
4. 与薬	56
1) 注射・点滴 56/ 2) 内服・外用薬 58	
5. 輸血	60
1) 輸血検査 60/ 2) 輸血同意書 60/ 3) 輸血製剤の申し込み 60/ 4) 製剤の確認手順 60/ 5) 輸血前の確認 60/ 6) 輸血開始後 60/	

7) 輸血製剤の保存・取り扱い	61
6. 肺塞栓症の診断・治療	62
7. 薬剤の取り扱い	63
1) 持ち込み薬を使用することが決まったら	63/2) 麻薬の取り扱いについて
64/3) 薬剤のQ&A	65/4) 退院処方オーダー発行について
77/5) フィルターを使用しない薬剤	78/6) 消毒薬の開封後の使用期限一覧表
79/7) 点滴漏れ時の対応	80/8) 褥瘡局所治療指針
81/9) 褥瘡局所治療選択アルゴリズム	82/10) センターの注射薬で血管外漏出に関する記載・対応があるもの
84	
8. 輸液ポンプ・シリンジポンプ	86
1) 輸液ポンプ使用法	86/2) シリンジポンプの使用法
88	
9. 疼痛コントロール	90
1) PCA	90/2) 利点
90/3) PCAポンプ設定	91/4) 設定方法・現行法・実際の麻薬の投与方法
91/5) 鎮静(トリクロ・エスケレ)	92/6) 鎮静における注意点
93/7) 覚醒確認	93/8) Recovery Criteria
94	
10. 放射線検査	94
1) MRI検査	94/2) 核医学検査(SPECTを含む)
95/3) 核医学検査後のおむつ等処理	95/4) 他院資料の取り扱い(放射線画像関係)
96	
11. 病理診断(細胞診・病理組織診)	97
1) 診断依頼時の注意(細胞診・病理組織診共通)	97/2) 検体採取および提出時の注意(細胞診)
97/3) 検体採取および提出時の注意(病理組織診)	97/4) 検体搬送方法(細胞診・病理組織診共通)
98/5) 胎盤検体搬送手順	98/6) 術中迅速細胞診断(細胞診・病理組織診共通)
98/7) 術中迅速病理診断(電子カルテオーダリング)	99
12. 人工呼吸器(Puppy-2・ニューボートE100M)	99
1) 使用前のチェックポイント	99/2) 使用中のチェックポイント
99/3) Puppy-2の使用法	101/4) ニューボートE100Mの使用法
102/5) DOPE(ずつき)	104
13. チューブ・ドレーン類の固定	105
1) 胃管: 固定方法と注意点	105/2) 中心静脈カテーテル: 固定方法と注意点
106	

14. 転倒・転落	106
1) 病室・ベッド補助具の選定	106/2) 入院時オリエンテーション
106/3) 環境整備・物品補助具の管理	107
15. 身体抑制	107
1) 基準	107/2) 適応
107/3) 実施前評価	107/4) 抑制の種類と選択
107/5) 看護・観察	108
16. 虐待(不適切な養育)の初期対応	109
1) 平日昼間	109/2) 夜間・休日
110	
17. 暴力・迷惑行為発生時の初期対応	111
18. 災害時の対応	112
1) 火災時	112/2) 地震時
113/3) 防災設備一覧	114
19. 薬物中毒	117

抗菌薬マニュアル 119

1. 抗菌薬を使用するにあたって	120
1) 患者の重症度の把握(患者は重症か?)	120/2) 感染臓器の同定(感染はどこにあるのか?)
121/3) 起因菌の同定(感染の原因菌は?)	123/4) 適切な抗菌薬を適切な治療期間投与する(最適な治療とは?)
123	
2. ASP 抗菌薬許可制の実務について	130
1) 制限開始日	130/2) 制限対象抗菌薬
130/3) 対象抗菌薬の処方手順	130/4) 作業に必要な事項
131/5) 抗菌薬使用許可願	132/6) 抗菌薬使用許可制の流れ
138/7) 国立成育医療研究センターアンチバイオグラム	2009
140	

付録

医師 PHS 一覧	142
その他の部署連絡先	145
国立成育医療研究センター緊急連絡体制	148
カレンダー	149
年齢早見表	151
医療安全・感染対策研修受講カード	152

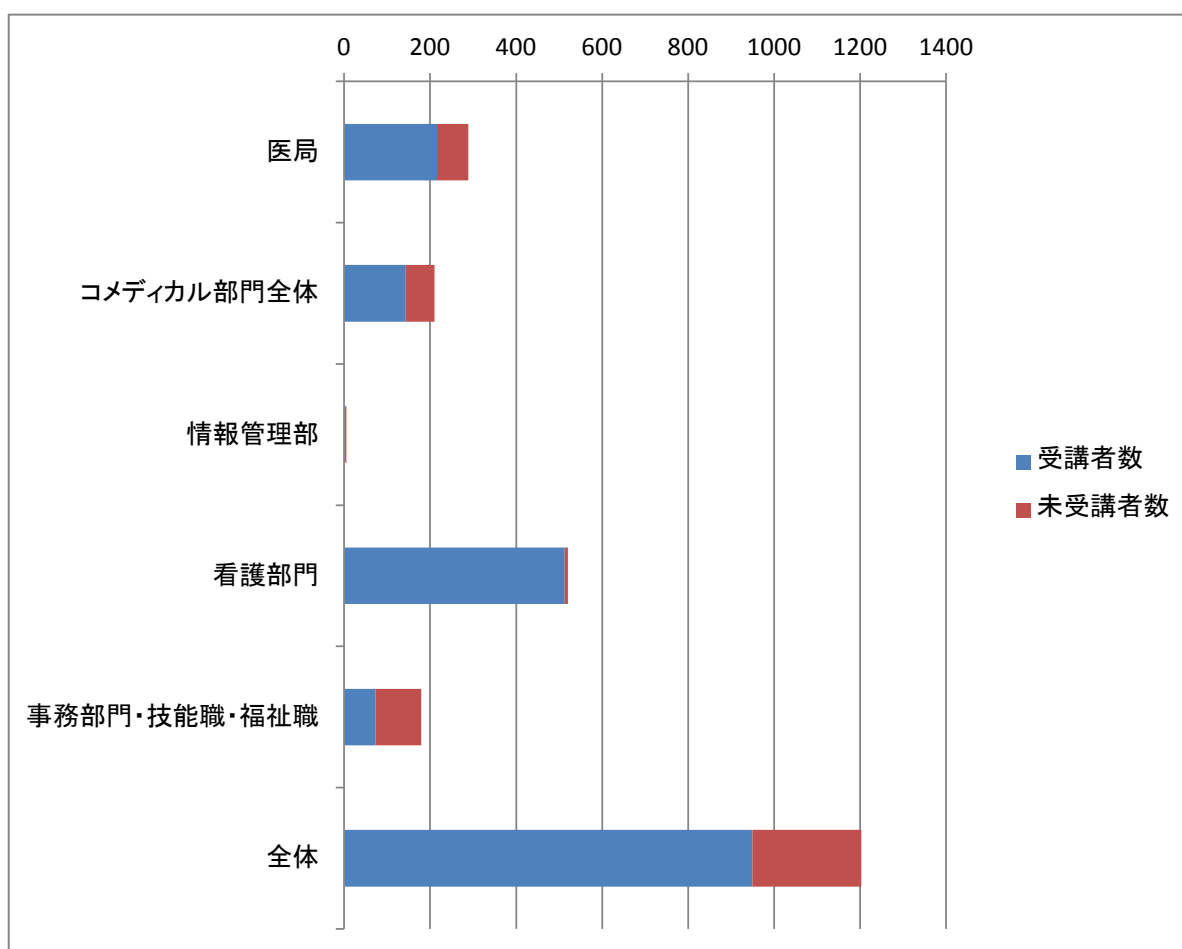
## eラーニング受講状況

## eラーニング受講状況報告

4月2日(月)朝現在の受講状況を以下の通り報告いたします。

	受講者数	未受講者数	受講率	所属人数
医局	216	73	74.7%	289
コメディカル部門全体	143	67	68.1%	210
情報管理部	4	1	80.0%	5
看護部門	513	7	98.7%	520
事務部門・技能職・福祉職	73	106	40.8%	179
<b>全体</b>	<b>949</b>	<b>254</b>	<b>78.9%</b>	<b>1203</b>

(産休中4名除く)



※職員のIDの最初の桁が「1」の職員は医局、「2」の職員はコメディカル部門、「3」の職員は看護部門、それ以外を事務部その他として集計されているそうです。

子どもの心の診療拠点病院事業  
ホームページ



## 子どもの心の診療拠点病院機構推進事業



ご来場：**5**



[災害関連・ご家族へ](#)

[災害関連 支援者・専門家へ](#)

[拠点病院事業とは？](#)

[全国拠点病院の窓口](#)

[困ったときは…](#)

[よくある子どもの心の問題](#)

[用語集](#)

[資料集](#)

[リンク](#)

[⇒ 発達障害情報センター](#)

[〈 情報共有サイト ログイン 〉](#)

ユーザー名:

パスワード:

パスワード紛失

### お知らせ

**NEW** 【2012/05/15】

【中央拠点病院からのお知らせ】

前回の会議時での、各拠点病院の方および行政の方のお話を踏まえ次回の会議を下記日程にて設定させて頂きました。

議題等の詳細および出欠確認につきましては、追ってご連絡させて頂きます。日程調整の程何卒よろしくお願い申し上げます。

・第3回子どもの心の診療ネットワーク事業 連絡会議



- ・日時 : 2012年 7月 6日(金) 13:30~16:30
- ・会場 : 関係者のみの会議のため、掲載は控えさせていただきます。

【2012/05/15】 【各拠点病院からのお知らせ】

- ☆大阪府☆ 大阪府立精神医療センター松心園からのご案内です。
- テーマ/子どもの力づけ自尊心を高めることばかけのコツ
- 日時: H24年5月26日(土) 13:30-16:30
- 場所: 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
- 講師: 急遽代理の方に変更となりました。
- 帝京大学、東海大学医療技術短大 講師 花田志喜子先生  
(TVP国際公認ファシリテーター)
- 詳細は、添付ファイル 松心園20120526.pdf をご参照ください。
- ・ 松心園20120526.PDF

【2012/02/07】 【中央拠点病院からのお知らせ】

- 下記内容にてセミナーを開催いたします。
- テーマ/子どもの心の診療におけるコメディカルの役割
- 日時: 平成24年3月15日(木) 10:00~17:00
- 場所: AP品川 京急第2ビル 10階 会議室A
- 対象: 東京都、神奈川県、静岡県、石川県、三重県、大阪府、鳥取県、山梨県、長崎県、佐賀県、岡山県、オブザーバー登録県内の医師、看護師、心理士、MSW、PSW、OT、チャイルドライフスペシャリスト、行政担当者等
- ※プログラムや申込方法の詳細については下記をご参照ください。
- ・ コメディカル研修会 プログラムFixVer2.pdf

【2012/02/07】 【各拠点病院からのお知らせ】

- ☆石川県☆
- 子どもの心のケアネットワーク事業研修会
- テーマ/保育所・学校などでとまどっている子どもたちへの理解と対応を考える
- ※詳細は下記をご参照ください。
- ・ 石川県\_研修会.pdf

【2012/02/07】 【各拠点病院からのお知らせ】

- ☆東京都☆
- フォーラムに関するお知らせです。
- 「子供の心を考える都民フォーラム」
- テーマ/現代の子供が抱える心の問題~子供とインターネット~
- 日時/平成24年2月15日(水) 13:30~16:30
- ※プログラムの詳細は下記をご参照ください。
- ・ 東京都\_現代の子供が抱える心の問題.pdf

【2011/08/04】 「子どもトラウマ診療ガイドライン(専門家向け)」について誤植のお詫びと訂正がありました。詳細は「災害関連 支援者・専門家へ」のページをご参照ください。

【2011/06/30】 資料集を更新しました！  
ガイドラインやパンフレットなども掲載していますので、ぜひご覧ください。

[申請様式](#) · [調達情報](#) · [関連リンク](#) · [メールマガジン](#) · [個人情報](#) · [著作権とリンク](#)

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1 電話：03-3416-0181 FAX：03-3416-2222

2008 © National Center for Child Health and Development All rights reserved.

センター

病院

研究所

## 災害関連・ご家族へ

- ・ [ご家族の皆様へ](#)・[0.15 MByte]
- ・ [障害をお持ちのお子さんのために](#)・[0.15 MByte]
- ・ [大切な方をなくしたお子さんの反応とケア](#)・[0.14 MByte]
- ・ [こころとからだのケア](#)・[5.7 MByte]  
[こちらからもダウンロードできます](#) こころのオアシス「地震支援情報」ページより

[子どもの心の診療](#) | [拠点病院事業とは？](#) | [全国拠点病院窓口](#) | [困った時は…](#) | [よくある子どもの心の問題](#) | [用語集](#) | [資料集](#) | [リンク](#)

[▲ ページ上部に戻る](#)

[▲ 国立成育医療センターに戻る](#)

[申請様式](#) | [調達情報](#) | [関連リンク](#) | [メールマガジン](#) | [個人情報](#) | [著作権とリンク](#)

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1 電話：03-3416-0181 FAX：03-3416-2222

2008 © National Center for Child Health and Development All rights reserved.

## 災害関連・支援者専門家へ

### ・ 災害心理教育

…（お使いになる前に、“「災害心理教育」をお使いになる方へ”を必ずお読みください）

「災害心理教育」をお使いになる方へ・[0.1 MByte]

（ご使用前に必ずお読み下さい）

災害心理教育①(事実を伝える)・[0.7 MByte]

災害心理教育②(気持ちの成り立ち)・[1.6 MByte]

災害心理教育③(リラクゼーション)・[1.1 MByte]

・ 親を亡くした子どもへのケア（支援者向け）・[0.05 MByte]

・ 子どもトラウマ診療ガイドライン(専門家向け)・[3.1 MByte]

・ トラウマ診療ガイドラインお詫びと訂正・[0.2 MByte]

・ 心とからだのケア・[5.7 MByte]

こちらからもダウンロードできます [こころのオアシス「地震支援情報」](#) ページより

[子どもの心の診療](#) | [拠点病院事業とは？](#) | [全国拠点病院窓口](#) | [困った時は…](#) | [よくある子どもの心の問題](#) | [用語集](#) | [資料集](#) | [リンク](#)

[▲ ページ上部に戻る](#)

[▲ 国立成育医療センターに戻る](#)

[| 申請様式](#) [| 調達情報](#) [| 関連リンク](#) [| メールマガジン](#) [| 個人情報](#) [| 著作権とリンク](#) |

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1 電話：03-3416-0181 FAX：03-3416-2222

2008 © National Center for Child Health and Development All rights reserved.

## 拠点病院事業とは？

発達障害、子どもへの虐待、家庭問題、不登校など子どもの心の問題が増加し、子どもの心の診療の充実が求められています。

それに対応して、平成20年度から3年間の厚生労働省の事業として、子どもの心の診療拠点病院機構推進事業がスタートしました。

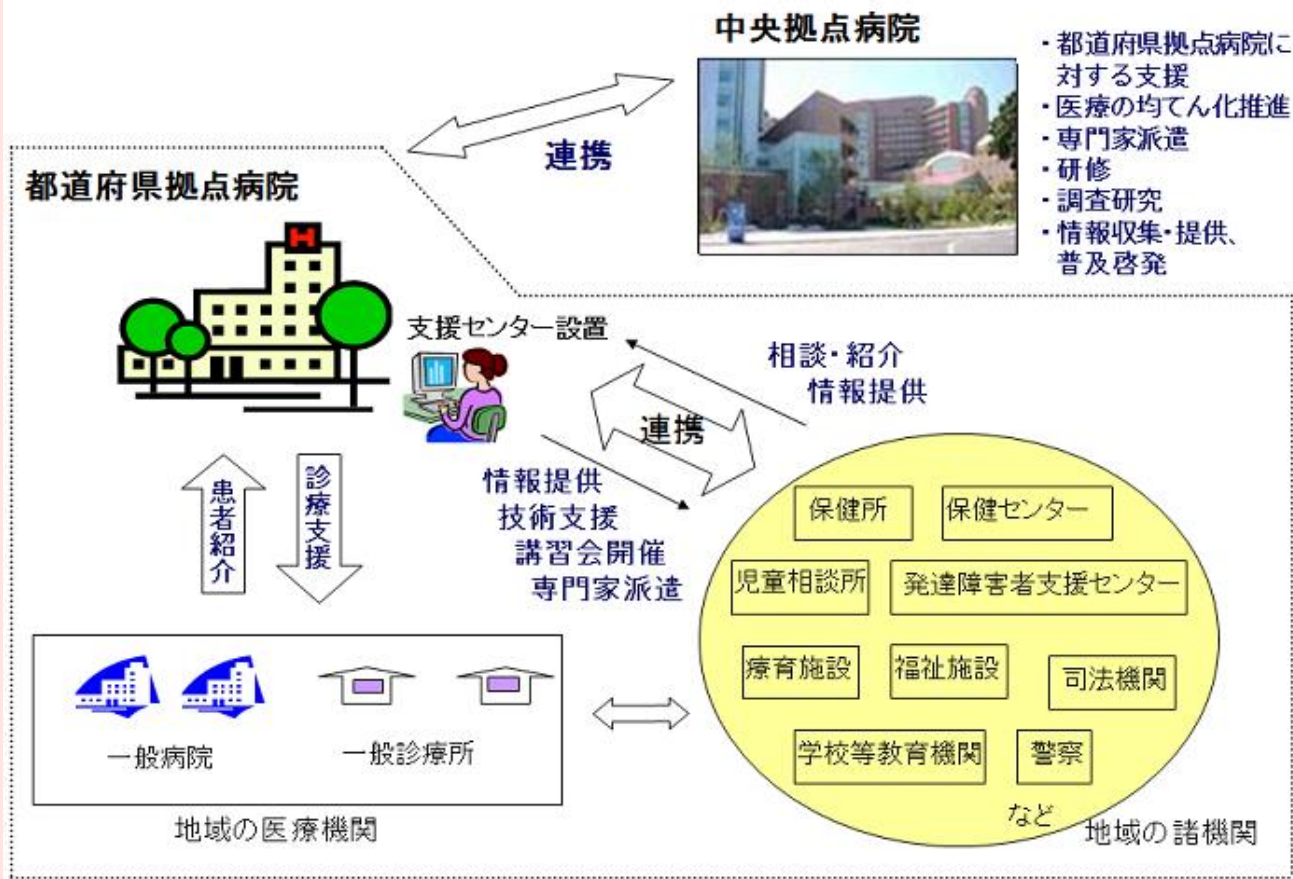
平成23年度からは、更なる拡充およびより良い診療体制のため「子どもの心の診療ネットワーク事業」として本格的に実施されます。

これまでと同様に各地域の拠点病院を中心として、地域の病院・児童相談所・発達障害者支援センター・保健所・保健センター・療育施設・福祉施設・学校等教育機関（保育所・幼稚園・学校など）・警察などと協力し、お子さんのケアを行います。

また、子どもの心を専門に扱う医師やその他の専門家の育成、子どもの心の問題に関する正しい知識の普及などを行います。

中央拠点病院としては、都道府県拠点病院に対する支援、医療の均てん化推進、専門家派遣、研修、調査研究、情報収集・情報の提供、普及啓発に取り組んでいます。

# 子どもの心の診療拠点病院ネットワークのイメージ



子どもの心の診療 | 拠点病院事業とは？ | 全国拠点病院窓口 | 困った時は… | よくある子どもの心の問題 | 用語集 | 資料集 | リンク

[▲ ページ上部に戻る](#)  
[▲ 国立成育医療センターに戻る](#)

[申請様式](#) | [調達情報](#) | [関連リンク](#) | [メールマガジン](#) | [個人情報](#) | [著作権とリンク](#)

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1 電話：03-3416-0181 FAX：03-3416-2222

2008 © National Center for Child Health and Development All rights reserved.

「子どもの心の診療におけるコ  
メディカルの役割」研修会



～子どもの心の診療ネットワーク事業セミナー～

# 「子どもの心の診療におけるコメディカルの役割」

日時：2012年3月15日（木曜日）10時00分～17時  
場所：AP品川 京急第2ビル 10階 会議室A

## プログラム

総合司会：国立成育医療研究センター こころの診療部 部長 奥山 真紀子

9:30～	受付開始	
10:00～10:10	ご挨拶	国立成育医療研究センター こころの診療部 奥山 真紀子
10:10～11:30	心理士の役割	国立成育医療研究センター こころの診療部 心理療法士 柳楽 明子
11:30～12:10	MSW の子どもの心の診療に関する役割	国立成育医療研究センター 医療社会事業専門員 實方 由佳
12:10～13:00	昼食	
13:00～13:40	PSW の子どもの心の診療に関する役割	東京都立小児総合医療センター 子ども・家庭支援部門 板垣 道夫
13:40～14:20	子どもの心の診療に関する作業療法の役割	首都大学東京 健康福祉部 作業療法学科 准教授 三浦 香織
14:20～15:00	小児科看護師の心のケア	国立成育医療研究センター 看護部 西海 真理
15:15～15:55	精神科看護師の心のケア	国立国際医療研究センター国府台病院 看護部 高橋 美穂
15:55～16:35	チャイルドライフスペシャリストの役割	国立成育医療研究センター 看護部 相吉 恵
16:35～17:00	ディスカッション	

## 申込方法

対象：東京都、神奈川県、静岡県、石川県、三重県大阪府、鳥取県、山梨県、長崎県佐賀県、岡山県、オブザーバー登録県内の医師、看護師、心理士、MSW、PSW、OT、チャイルドライフスペシャリスト、行政担当者等

定員：先着 60 名

費用：無料

申込：下記メールアドレス宛に所属、職名、氏名を明記の上、ご連絡ください。

連絡先：国立成育医療研究センターこころの診療部内  
子どもの心の診療ネットワーク事業  
中央拠点病院

[E-mail/kokoro@ncchd.go.jp](mailto:kokoro@ncchd.go.jp)

## アクセス

東海道新幹線、JR東海道線、JR山手線、  
JR京浜東北線、JR横須賀線、京浜急行線  
「品川」駅徒歩3分

※羽田空港からは京浜急行快特で品川駅まで  
16分





# 教育研修部

センター

病院

研究所

臨床研究センター

トップ

病院長挨拶

病院紹介

外来診療

入院診療

救急診療

診療科・部門

医療連携室

国立成育医療研究センター > 病院 > 教育研修部

▶ **診療科・部門**

▶ [総合診療部](#)

▶ [器官病態系内科部](#)

▶ [生体防御系内科部](#)

▶ [臓器・運動器病態外科部](#)

▶ [感覚器・形態外科部](#)

▶ [こころの診療部](#)

▶ [手術・集中治療部](#)

▶ [周産期センター](#)

▶ [母性医療診療部](#)

▶ [臓器移植センター](#)

▶ [放射線診療部](#)

▶ [臨床検査部](#)

▶ [ライゾーム病センター](#)

▶ [病理診断部](#)

▶ [教育研修部](#)

▶ [栄養管理部](#)

▶ [薬剤部](#)

▶ [看護部](#)

▶ [MEセンター](#)

子どもと  
 家族への支援



ボランティア

地域社会に開かれた病院として  
 ボランティアを積極的に受け入れています。



教育研修部

- ・国立成育医療研究センターは、臨床、研究、情報発信に加えて「教育・研修」を柱にしている。成育医療に関わる医師および看護師等のコメディカルスタッフの教育と研修を進めている。
- ・当院の特徴は充実した設備と人員であり、国内で随一の研修環境といえよう。
- ・教育病院のアクティビティーはひとえに若い医師によって維持される。「優秀な若い医師を集めて十分な教育を行うことに病院の存廃がかかる」という情熱で教育に当たっている。(☒ 図1)
- ・国内で随一といっても、北米に比べればいまだ発展途上であり、絶えず改良が必要である。スタッフとともに研修プログラムを発展させて、作り上げてゆくという気概を持った若い人が研修に参加して欲しい。

就職を希望する方は、[こちら](#)からご覧下さい。

当センターの医師教育は二つの段階からなっている (☒ 図2)

卒後臨床研修(いわゆる初期研修)は行っていない。ただし、協力型臨床研修指定病院として、東京医療センターや関東中央病院の初期研修医を受け入れている。

1. 基本専門科研修(いわゆる後期研修、レジデント研修)

- ・卒後臨床研修(いわゆる初期研修)を終えた医師を対象にする。
- ・研修期間は3年間。
- ・研修終了時には基本領域専門医の受験に必要な資格、技能、知識が身につくようにプログラムが組まれている。

[小児医療系 レジデント研修](#)

[周産期 レジデント研修](#)

2. サブスペシャリティ研修(フェロー研修)

- ・基本専門科研修を修了した、卒後6年目以降相当の医師を対象にする。

- ・ 研修期間は2～3年間。
- ・ それぞれの専門診療科において研修する。
- ・ サブスペシャリティ専門医の取得を目標とする。
- ・ フェローは専門領域の教育を受けながら、レジデントの教育にあたり、将来スタッフとして診療や教育に当たるためのトレーニングも受ける。

[周産期 フェロー研修](#)

[手術集中治療部 集中治療科 フェロー研修](#)

[総合診療部 フェロー研修](#)

[総合診療部 救急診療科 フェロー研修](#)

[こころの診療部 フェロー研修](#)

[母性医療診療部 フェロー研修](#)

## 看護部の研修

[看護部の研修](#)

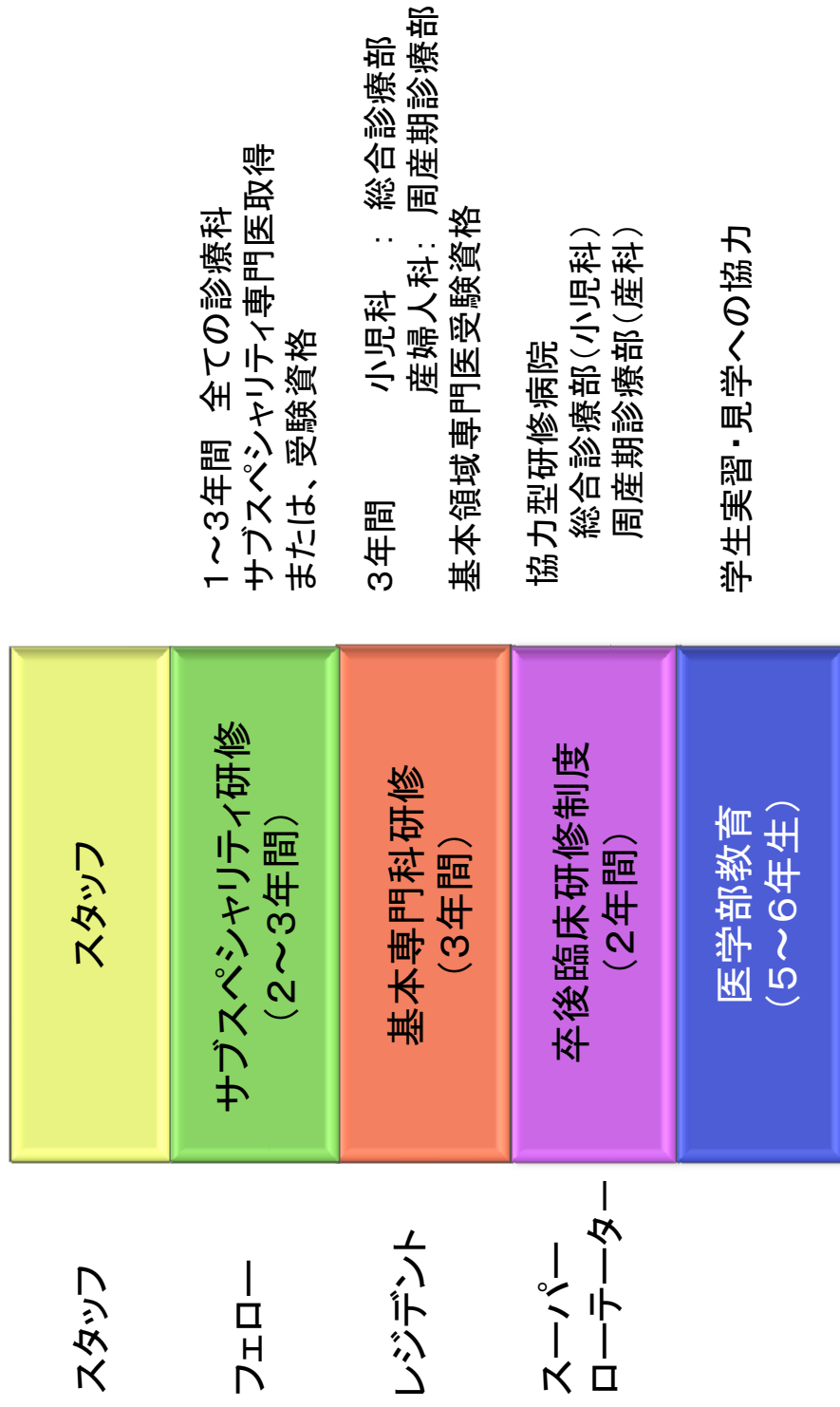
[▲ ページ上部に戻る](#)

[| 申請様式](#) | [調達情報](#) | [関連リンク](#) | [メールマガジン](#) | [個人情報](#) | [著作権とリンク](#) |

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1 電話:03-3416-0181 FAX:03-3416-2222

2008 © National Center for Child Health and Development All rights reserved.

図2 キャリアパス基本概念図



センター

病院

研究所

臨床研究センター

トップ

病院長挨拶

病院紹介

外来診療

入院診療

救急診療

診療科・部門

医療連携室

国立成育医療研究センター > 病院 > 教育研修部

▶ **診療科・部門**

▶ [総合診療部](#)

▶ [器官病態系内科部](#)

▶ [生体防御系内科部](#)

▶ [臓器・運動器病態外科部](#)

▶ [感覚器・形態外科部](#)

▶ [こころの診療部](#)

▶ [手術・集中治療部](#)

▶ [周産期センター](#)

▶ [母性医療診療部](#)

▶ [臓器移植センター](#)

▶ [放射線診療部](#)

▶ [臨床検査部](#)

▶ [ライゾーム病センター](#)

▶ [病理診断部](#)

▶ [教育研修部](#)

▶ [栄養管理部](#)

▶ [薬剤部](#)

▶ [看護部](#)

▶ [MEセンター](#)

子どもと  
 家族への支援



ボランティア

地域社会に開かれた病院として  
 ボランティアを積極的に受け入れています。



教育研修部

小児医療系 レジデント(小児科後期研修医)研修

○ 特長

- ・急性期(救急、PICUを含む)から慢性期まで、一般的な病態から重症、複雑、難治、稀少な疾患まで、内科系から外科系まで、あらゆる子どもの問題を経験できる(小児科医療ではなく、小児医療である)。
- ・地域医療から国際医療協力まで、幅広い小児医療を経験できる。
- ・小児に必須の超音波診断などの画像診断を、放射線診断科カリキュラムのもとで研修できる。
- ・研究所、臨床研究センターと連携できる。
- ・出身大学が実に多様であり、北大から琉球大まで、延べ30大学に渡る。
- ・上級医が何重にも見守って指導し、一定水準以上を担保する。
- ・総合診療部が受け皿となるとともに、内科系専門診療部、手術集中治療部、周産期診療部の各科との連携により専門診療を学ぶ機会も多い。
- ・小児科専門医の受験資格が得られる。
- ・総合診療部と教育研修部は密接に協力し、教育に情熱を傾けている。

○ 目標

- ・小児医療全般にわたる幅広い知識、経験、技能を有し、患者、家族および他の医療者と良好な関係を築いて、小児医療におけるチーム医療の中心となりえる人材になること。小児科専門医に合格すること。

○ 実績

- ・3年制。各年度12~14名。
- ・応募者数 — 2010年度は定員の2倍、2011年度~2012年度は定員の3倍を超えた。
- ・レジデント出身地( [図3](#) )
- ・レジデント出身校( [図4](#) )
- ・研修者の進路( [図5](#) )

○ プログラム

- ・1年目: 病棟と救急外来で基本的な診療、ローテーション(麻酔科、放射線科、新生児)。
- ・2年目: ローテーション(PICU、NICU、血液/固形腫瘍科、外来、病棟、選択)。

- ・ 3年目：病棟で1年目の指導、循環器科、内分泌・代謝科、選択期間。
- ・ 毎朝7時半から朝のカンファレンス、8時から病棟回診。
- ・ レクチャーや症例検討会が毎日昼食を食べながら行われている。
- ・ 学会発表は必須。できるかぎり論文(症例報告または臨床研究)を仕上げる。
- ・ 選択期間には研究所で研究もできる。

○ [昼のレクチャー\(2011年度\)NEW!](#)

○ [レジデントの声NEW!](#)

○ [研修風景](#)

([写真](#) [図6~8](#))

([写真](#) [図9~11](#))

[▲ ページ上部に戻る](#)  
[▲ 教育研修部トップページに戻る](#)

| [申請様式](#) | [調達情報](#) | [関連リンク](#) | [メールマガジン](#) | [個人情報](#) | [著作権とリンク](#) |

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1 電話:03-3416-0181 FAX:03-3416-2222

2008 © National Center for Child Health and Development All rights reserved.

センター

病院

研究所

臨床研究センター

トップ

病院長挨拶

病院紹介

外来診療

入院診療

救急診療

診療科・部門

医療連携室

国立成育医療研究センター > 病院 > 教育研修部

## 診療科・部門

総合診療部

器官病態系内科部

生体防御系内科部

臓器・運動器病態外科部

感覚器・形態外科部

こころの診療部

手術・集中治療部

周産期センター

母性医療診療部

臓器移植センター

放射線診療部

臨床検査部

ライゾーム病センター

病理診断部

教育研修部

栄養管理部

薬剤部

看護部

MEセンター

子どもと  
家族への支援



ボランティア

地域社会に開かれた病院として  
ボランティアを積極的に受け入れています。



## 教育研修部

### 周産期 レジデント・フェロー 研修

周産期診療部 — 母体・胎児部門 (不育診療科、胎児診療科、産科)  
— 新生児部門 (新生児科)

### プログラム

#### ○ 母体・胎児プログラム (産婦人科医を対象)

1. レジデントコース： 初期研修 (2年) 終了者。産婦人科後期研修に相当。  
終了後、日本産科婦人科学会専門医認定審査の申請資格を得る。

2. フェローコース： 産婦人科専門医取得 (見込み) 者。  
周産期専門医、臨床遺伝専門医、超音波専門医などを旨す。

#### ○ 新生児プログラム (新生児医療の研修)

フェローコース：産婦人科・小児科専門医取得 (見込み) 者。  
サブスペシャリティ専門医 (同上) を旨す。

#### レジデントコース (産婦人科後期研修医)

原則3年間。

産科 (不育科)、胎児診療科、婦人科 (他施設にて研修)、新生児科での研  
修に加え、選択で母性内科、産科麻酔の研修を行う。

周産期医療を中心として産婦人科医療全般について研鑽を積む。